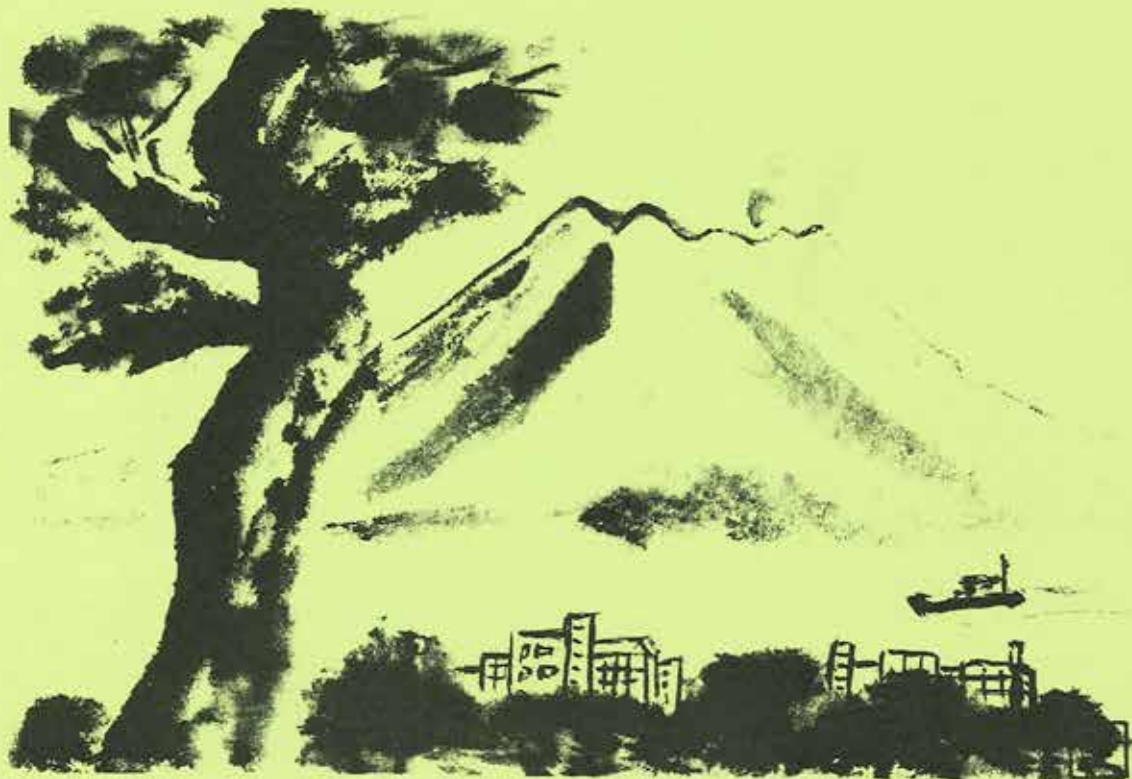


vol.15

南国暮らしの会

特定非営利活動法人

2002年 会報 新年号



平成14年 1月20日



NPO法人 南国暮らしの会

*表 紙	No. 24	酒匂 愛子	(頁)
*目 次			1
*新年のご挨拶	No. 3	池田 徳三郎	2
*海外会員への心使い	No. 163	宮崎 哲郎	6
*関東地区情報交換会(講演要旨)			
☆ 年金 21 万円の海外 2 人暮らし	(講師)	立道 和子さん	8
☆ コスタリカ共和国の紹介・観光・ツアー	(講師)	五十嵐 義明氏	13
* 3 週間のバリ島一人旅(ウブド 16 日・サヌール 5 日)	No. 245	佐藤 真理子	15
* ロタ暮らし近況	No. 398	山本 隆	20
* パースロングスティー一人暮らし	No. 315	鈴木 剛	22
* タイ、チェンマイの病院事情	No. 59	米田 隆雄	28
* チェンマイ日本語教師ボランティア(前篇)	No. 350	官 博	32
* ダバオからの変人便り	No. 341	平野 雅一	35
* マルタ島でのホームステイ 3 ヶ月	No. 128	稲延 裕	40
* 南の会・伝言・掲示板			42
* 支部・部会伝達板			47

2002年 元旦

会員の皆様

特定非営利活動法人
南国暮らしの会

理事長 池田 徳三郎



新年のご挨拶

輝かしい21世紀は人類の多くの夢を実現することでしょう。その2年目の新年を皆様と共に迎えることが出来、誠にめでとうございます。最初の1年は「戦」の年とも言われ、新しい長期戦争「組織的テロ」の爆発の年でもあり、海外生活に一抹の不安をもつ年でもありました。新しい年は、荒れ馬のテロ活動が静まり平和裡に海外生活を楽しむ年になることを願いたいものです。

新年は午（馬）年にあたりますが、午は神の使いとして人々に敬愛された時代があり、また馬頭観音として村々で敬い親しまれてきた時代がありました。昔から平和時には家畜として農耕・交通運輸等に利用され、大切にされてきましたが、戦時には重要な戦力として、利用され、活躍した時代もありました。新年は平和な午年となり、ヒヒンと経済的飛躍の年でありますよう望みます。

会員の皆様の暖かいご協力に支えられ、理事長に推挙されまして、3回目の初春を迎えることが出来ました。これも偏に会員の皆様のご支援ご協力のお蔭でありまして、心から感謝致しておるところであります。

就任2年2ヶ月

1. 思い起こしますと、嘗てマニラ・バンコク・KL等の友人に招かれ、3カ国はよく行き来しておりましたが、たまたまマニラ行きの機内で誘われ、南の会に入会しました。

入会後の平成11年（1999年）の4月30日の幹事会で、NPO法人化推進委員長に推挙され、先輩幹事と共に「NPO法人申請」手続き（同年6月15日申請）のお手伝いをし、同年9月30日に「特定非営利活動法人 南国暮らしの会」として、東京都の認証を受けることが出来ました。

認証後の役員会で理事候補に推挙され、同年11月6日の総会において理事に選出され、さらに多くの有能な先輩がおられるにもかかわらず、理事会において理事長に推挙され、就任しました。

2. 就任後の2年2ヶ月を回顧しますと、就任早々の大きな課題は海外における不動産の取得等の問題でありました。「不動産等の取得・借用等に関する法人の基本方針」（11, 11, 12、理事会決定）を取り纏めて以降、1年2ヶ月の間、主に海外不動産に関する諸課題と取り組み、その多くの時間（理事会その他）を使いました。調査担当理事ほか多くの理事がこの課題を真剣に調査・研究し、それぞれの研鑽成果を会報・別刷り冊子等で発表し、配付してきました。

他方、前会長の「日本人村構想・冒険ダン吉構想等」は土地の無許可壊成その他の理由で中断（平成12年12月末）しました。

3. その間（平成11年10月から12年12月）、海外不動産以外の事項を併記します。

- ① 開かれた会、透明な会を目指し、理事会としては有限の資金の範囲内で会員のご希望を、会の諸活動に可能な限り反映することでありました。IT時代に対応するためEメール名簿の作製・利用、会報等によるアンケートの利用、各種のミーティング等を活発化することに努めました。
- ② 会の法人の組織的活動を推進するため、理事の主たる役割分担を協議して決め、関係するご提案を願い、理事会で決定し、組織的に実施してきました。
- ③ 経営基盤を確立するための努力は、会報に「広告」を掲載すること以外に実りある成果はありませんでしたが、役員ボランティア、各会員の利益者負担等を続けさせて頂き、会員の増加を図り、収支バランスを取りながら会報の充実に努めました。
- ④ また、理事会は会計処理要領その他細則の作成に努め、総会・理事会の公開、各種ミーティング、会報の充実、各種委員会の発足等、会の透明性と相互親睦に力を注ぎ、周知の基礎固めをすることが出来ました。
- ⑤ 会のシンボルマークが「名称マーク選定委員会」で選定され、藤井白道様、富永来久夫様の素晴らしい共同作品が正式に理事会で決定しました。
- ⑥ マレーシアツアーを担当理事の企画を軸に実施し、KL周辺とペナン島を視察し、KL日本人会との情報交換、ペナン在住の日本人との交流を図ることが出来、多くの情報を享受できる基盤が出来ました。
- ⑦ 支部の組織的活動は、一部でやや欠ける点も伺えますが、関西支部等は活発な活動を続けております。支部長のご努力の賜物と感謝しております。
- ⑧ 無償で対外PR活動をするには、魅力ある会の内容を記事に掲載する以外に望めないのですが、「年金20万円で楽しい海外生活」のキャチフレーズは当時の報道関係者には興味あるものでした。週間朝日の取材を受け、「南国暮らし夢の会―脱ニッポン宣言」のタイトルで掲載（平成11年11月30日号；P4）。また、東京新聞の取材を受け、「定年後は東南アジアで悠々自適」―実践する「南国暮らしの会」の見出しで、記事掲載（平成12年6月13日夕刊；40行4段写真入り）。月刊「望星」に「NPOという生き方〈市民生活の新たな可能性を探して〉南国暮らしの会」に記事掲載（2000年9月号 東海大学出版部；P2）。その他TV取材、放映等を行うことが出来ました。
- ⑨ 東京都・税務署・都税務事務所・法務局等関係官庁の各種届出、報告等を手探りでこなすことが出来ました。

これらも会員・関係役員の皆様のご努力の成果であります。しかし、法人になりまして、1年2ヶ月の歩みは試行錯誤の幼児の歩みで、その多くの肉づけは13年（2001年）に持ち越されることとなりました。

4. 平成13年（昨年を顧みて）

前年の理事会はその多くの時間を海外不動産の課題（主としてフィリピン）に費やしました。なお若干13年に持ち越してきましたが、その課題は一応ピリオドとし（大変難解な課題）、会員の声を大切にする前向きの内容の充実に関する検討が理事会でなされました。

- ① ITの普及と共にインターネット委員会のご活躍により、会員のEメール利用者は増

加し、会員間の相互情報交換、連絡等に活発に利用されている現状は喜ばしい限りです。また、**会報の内容**も同委員会の多大なご努力と会員のご協力により、会員相互の情報提供の輪や要望はより広がり、役員会の情報もより多く掲載し、開かれた会、透明な会として実りつつあります。**会員相互のミーティング**も会員の皆様のご協力と関係役員のお蔭で活発化し、その回数も増加しておりますし、土曜サロンの試みも同様のお力で大きく膨らみ発展できればと期待しております。

- ② 法人の組織的活動をより充実するため、総会（6月16日）において、**理事の定数増員**(15人以内—会の定款変更—)その他が承認されましたので、定款変更の認証を東京都に申請し（6月22日）、認証されました（10月19日付け）。現在新旧12名の理事（うち副理事長2名）が新しく業務を分担し、担当事項の諸案を理事会に提案していただき、決定し、実施しており、お蔭をもちまして、従前以上の活動が期待されます。

真に惜しまれることは、会の発足以来幹事として、法人の副理事長として、会の発展のために献身的に終始尽くされました博学真摯の三井田雅俊様また不動産に関しご専門の原延光様がそれぞれご自身のご都合で理事をご辞退されました（10月）ことにより、理事会としては有為の人材を欠き、誠に残念に存じます。ご両人様がこれまで会の整備・発展に尽くされました数々の多大なご功績に対し惜しみない感謝の意を表します。

- ③ 会の経営基盤の確立に関しては残念ながら、非営利活動法人として昨年の域を越えることが出来ませんでした。来年度の会費等値上げ（前記総会承認）と併せこの点、会員の皆様の温かいご理解を賜り、引き続き良いアイデアのご提案をお願いしたいと存じます。
- ④ 昨年来、理事会で決定してきました細則等を定款と共に冊子に纏めるため、「規程集編集委員会」が会を重ね、その成果は「規定集」として会員のお手元にお届けします。
- ⑤ タイツアーを昨年同様に企画実施し、バンコクにあるタイ国日本人会その他の方々との情報交換及びチェンマイの多くの方々と交流することが出来ました。また、タイ国の厚生省大臣室でタイの医療についてお話を聞く機会を得、さらに日本人対象の**医療施設**（私立病院）の見学の機会を得ることが出来、大変参考になりました。
- ⑥ 厚生活動（海外の医療・介護等）は会の大切な情報の一つではありますが、理事の増員に伴い**厚生担当理事**を業務分担に追加し、海外の医療・介護に関する情報の収集等に努めることになりました。
- ⑦ シンボルマークは愛されるマークとして会員のなかに浸透し、会員からの名刺の注文等増加しており、会の封筒、会報その他に活用されるようになりました。
- ⑧ 支部の組織的活動を充実する一方法として、総会で細則変更のご承認に伴い**関東支部**を新設し（会員相互の触れ合いの機会を多くする目的）、**会合の機会**を増加し（研修会、海外情報交換会、海外帰国歓迎報告会、会員サロンその他）、会報・ホームページ・その他で周知し、ご都合のよい全国会員のご参加を期待することになりました。多くの会員が会合の機会を関東支部にご提案願ひ、会合の機会をより多く出来ればと希望します。

- ⑨ 長・短期の海外ステイを志向する潜在年金生活者・退職者・若者は多いと推測しますが、その機会・方法に疎いのでしょうか。その意味で会の活動の意義も大きいと思います。無償の対外PR活動は、各役員の間心事であります。関係役員等が努力してきました。

「日経マネー（月刊雑誌 No202 13年3月号 日経ホーム出版社）」サークルの一つとして「南の会」を紹介、その他海外移住、長期滞在等の対談記事のなかで、会の紹介掲載。

「ビオラー福祉と健康の新聞」（13年3月30日付け 第一面全面記事 写真2枚入り）「定年後は南国でエンジョイ 21世紀型の暮らしを探る NPO 法人南国暮らしの会--」と長いタイトルで、同社編集長のインタビューを受け、その結果について掲載。

「定年後 実は第二の人生が辞典」（13年6月、講談社発行、舛添要一著）「南国暮らしの会」を知っていますか？（約2ページ）、講談社の電話取材により掲載。

「思い切つて生活を変えてよかつた」（13年10月、えい出版社）サークルの一つとして紹介。

「海外リタイア生活術 豊かな「第二の人生」を楽しむ」（13年11月、平凡社、戸田智弘著）会の紹介記事。「ロングステイ季刊誌」（13年夏季号・秋季号）会の投稿記事掲載。

その他、新聞・雑誌等にレポート掲載。会のホームページを活用してPRの一助としております。会員の皆様におかれましても会のPRにご協力くださいますようお願いいたします。

魅力ある会にするために

この会は良識ある会員で構成され、良識ある会員のために、良識ある会員のご意見により支えられ、限られた資金で運営されています。魅力ある会にするために、会員の建設的なご意見・ご提案が必要です。是非ともご協力をお願いします。

新年の最大の課題の1つは、会員の一人一人が、ボランティアスピリットで「会に関心をより多く持ち、より多く参加して頂けるか」、その為にはどのような事を実施したらよいか、限られた資金の範囲内で、その具体的方法は何か？。

年頭に際し、前記過去の足跡に照らし、会員一人一人が夢と希望を膨らませながら真剣に再考頂ければと希望します。そこから、それを集約すれば過去の足跡を越えるものが必ず新生出来ると思います。

例えば、インターネットの今後の有効利用（会員利用登録者三分の一と推定）は、関心事であります。会員相互の連絡、要望・意見の発表のほかに、海外の生活・治安・特に借家宿泊（関心が高い）・医療介護・海外との交流・航空券・空港周辺その他の情報の相互提供（ITに詳しい会員はこれらに関し多くの情報をキャッチ出来るでしょうが、そうでない人も居られます。ITに詳しい会員のリストがもし出来れば、交流可能です）、同利用登録者の増加方法は有効利用の内容の濃淡と関係するのではないか？（と素人の甘い思考）等々。さらに会報・各種ミーティング・海外ツアー・海外との交流・海外医療介護・PR方法・懇親会・理事会その他に関して魅力ある明るい楽しい会に発展する為の具体的方法等のご提案を期待致しております。

終わりに際し、会員の皆様が本年もよりよい年でありますよう祈念して止みません。

海外会員への心使い

副理事長(事務局海外推進担当) 宮崎 哲郎

本会会員は南の国での生活を満喫するために自ら希望滞在地の調査訪問が必須不可欠な事です。そこで初めての現地訪問となりますと色々不安な事もありますので、現地に於ける豊富な情報と経験をお持ちの**海外会員にサポートをお願いするのが最も有益で効率的な方法です。**

幸いなことに当会の海外会員の方々は皆さんボランティア精神に富んだ良い方ばかりで、訪問される方々のお世話をする事に積極的です。

当初は会員数も少なく同じ仲間意識と訪問者の一般常識を信じ海外会員は対処しておりましたが、会員数増加に伴い残念ながら一部の方々ですが**非常識な言動を行い、その誠意を踏みにじるような事が最近増加し海外会員を悩ませています。**そこで事務局からお願いですが海外会員の方への心使いを下記の様にして頂きお互いに気持ちの良い「旅」が出来る様切に希望いたします。

1.) 訪問される方、サポートする側両方とも**フィフティ・フィフティの関係**です。このことを忘れないで下さい。よくある事ですが現地では自分が「**ボランティアされるのが当然**」と勘違いされている方がおられる事です。海外会員の方は皆さんをお世話することに喜びを感じて親切にされているのです。
案内はしますが「**運転手**」でもなく「**ガイド**」でもないのです。現地会員をその地では自分より経験、**情報の豊富な「先輩」**として又会の「**友人**」として接する気持ちが欲しいものです。
2.) 海外会員の方もそこで生活をしているのですから自分の都合のつく時間にお手伝いしています。**ハードなスケジュールをお願いしないようにして下さい。**
3.) 皆さんを案内するためには車を使いますのでガソリン代、ホテルを予約したりするには電話料等費用が要ります。**これら発生費用を負担するのは当然受益者**です。当会ではそのために「**海外会員への謝礼金の目安**」を決めております。
2001年会報秋季号に同封送付の「**南の会必携8. 生活情報①**」を渡航前に良くお読みになってこれを**目安に現地でお礼の気持ちを表して下さい。**
なを現地ですれれば良いかご相談があれば出発前に事務局へお問い合わせください。
4.) 案内時の交通事故も皆無とは云えません、又急病も起こり得ます、これらに対する**傷害、疾病保険の加入も怠り無く準備して現地会員に迷惑を掛けない配慮をして訪問して下さい。**
5.) 食事を一緒にした時は皆さんの為時間を費やしているのですからお礼の一

部として当然行かれた方が現地会員の分は負担してください。

- 6.) 現地でサポートされる方は誠心誠意対応されておられますので**帰国後はご挨拶をお忘れなく！**せめて**メール等で「無事帰国」だけでも**現地会員としては報われた気持ちになります

以上それは「常識で分っているよ、煩いなーと」云われそうですが現実はこの常識の通じない方が残念ながらおられるのです、「いい年をして」とお互い云われない様にしましょう。

そこで事務局よりのお願いです。

現在「南の会」の海外会員が居られる所は、マニラ、セブ、クアラランプール、ペナンチェンマイ、ロタ等です。会員の方でこの地区に行かれ、海外会員にお世話になれる予定の方は是非**出発前に事務局海外推進担当(宮崎)または会員担当(酒匂)へご連絡**をお願いします。 メールは tetsumiyazaki@hotmail.com (宮崎)

sakou-k@nyc.odn.ne.jp (酒匂) です。

現地での必要経費等のご相談をしその地でお互いに嫌な思いをしないで済むようにしたいと考えております。

海外会員メールアドレス (参考資料)

マニラ 塩見氏	shiomi@compass.com.ph
セブ 鈴木宏氏	pillory@mozcom.com
クアラ 末氏	suedk@arc.net.my
ペナン木村氏	y-kimura@eps4.comlink.ne.jp
チェンマイ鈴木(宣)氏	kuro2@loxinfo.co.th
ロタ 山本氏	jsouthwind@aol.com

皆さんとの連絡はメール又は電話で。FAXはチェンマイの場合受信1回に就き約60円かかり、受けられる方に費用が発生しますのでご注意ください。

以上

年金 21 万円の海外 2 人暮らし

講師：東京都在住 立道 和子さん

私は昨年 8 月に「年金・月 21 万円の海外 2 人暮らし」という本を出版しました。

私は 3 年前、55 歳の時に出版社を辞め、これで好きな池波正太郎の本を明け方まで読んでも何の問題もないということで、正直言って嬉しかったです。そしてこれからはやりたいことをやり、海外のあっちこっちに行き、好きなビールを飲んでふらふら自由に暮らすつもりでした。

ところが、年金もどんどん減るようですし、医療費の個人負担も 3 割になるそうで、なかなか計算通りにいかないなあとと思っています。先日私の年金を計算してもらったら月 15 万 5 千円で、手取りにすると 15 万円となりこれは大変だと思いました。海外で暮らしたいと思っていたのが、海外で暮らすしかないというふうになってしまいました。

こんなことなら、もっと早く辞めて、もっと早くから、ふらふら自由暮らしを始めおけばよかったと今では後悔しております。

そこで私は年金で暮らせる楽園を海外で見つけたいと思いあっちこっち行ったのですが、私が 3 年間に暮らしてきたのは、ハワイ、バンコク、ペナン、ゴールドコースト、ポルトガルのカスカイス、チェンマイです。

ここにお集まりの南の会の会員の方はすでによくご存知のところだと思いますが、今日は 6 つの町について感想をまじえてお話をさせていただきます。

本題に入る前に私が考えている「海外で暮らすための 7 か条」を申し上げますと

1. 治安が良い事
2. 安心できる病院がある事
3. 気候が暖かい事
4. 食べ物がおいしいこと
5. 物価が安いこと
6. 人々が親切なこと
7. できれば海のそばがいい

これからお話しする町は以上の 6 つ以上の条件を満たしてくれる町だということになります。

ハワイ

物価が高いという印象がありますがそれほどでもありません。ただ、問題は 2 つあると思います。ひとつはビザで、90 日以内であればビザをとる必要はありませんが 90 日ギリギリまで滞在して再びハワイに戻ると、今度は滞在期間を短くされたり、入国を認められないこともあるとされています。

ふたつ目は賃貸家賃が高いことです。私が行った時(1999 年 10 月)にはワンベッドルームのコンドミニアムが 13 万円で借りられましたが、今はオフシーズンでも 2

ようもないと言うんですね。

私がゴールドコーストに着いたのは月曜日だったので、1週間満室という事は丸1週間宿がないということなのです。その瞬間サーファーズパラダイスを重い荷物を持って宿を捜しまわる自分を思い浮かべ頭の中が真っ白になってしまったのです。

そうしたらそのバスの運転手さん（TOMさん）が、とても親切な人で「じゃ宿をさがすか」と言うんですね。「一緒に探してくれるんですか？」と言うと「当たり前だろ、放っておくわけにいかないだろう」と言うんですね。これで私はオーストラリア人＝いい人という図式ができあがり、一挙にオーストラリアファンになってしまったのです。

カスカイス（ポルトガル）

カスカイスはポルトガルの首都リスボンから車で30分ほどの港町です。

気候が穏やかできれいな海と白い石畳の道と緑の多い素敵な町で、昔からここにお金持ちが保養に来るところです。現在ではここに住むのがポルトガル人のステータスとなっています。

カスカイスは物価が安く、港町ですから魚の種類は豊富で新鮮でおいしかったです。

私は旅行に行くと旅の家計簿をつけるのですが、家計簿をよくよく見るとアルコール類がやたら安いことがわかったのです。例えばワインは1本120円、ビールは1本45円でした。ビールなしでは生きられない私にとっては、嬉しいかぎりでした。

それからここも人が親切過ぎるくらいで、カスカイスに住む日本人のご夫婦が観光に行った時の話なのですが、その観光地に行くのにどのバスに乗れば良いかと土地の人に聞いたところ、聞かれた人が突然猛烈な勢いで走りだし、ロータリーを横切ってバスを止めてくれたんですね。その観光地に行くバスが走り出したので、そのバスを止めに行ってくれたのです。それでその人はすっかりカスカイスファンになってしまったという事です。

カスカイスに長く住んでいるご夫婦に話を聞きましたが、とにかくこの町が好きで、75歳になるご主人はここにずっと住んでいたいと言い「ここは僕の第2の故郷ですよ」と言っていました。

チェンマイ（タイ）

バンコクと違って、田舎で素朴な町です。チェンマイでは新潟出身の鈴木さんご夫妻にお会いしました。

2LDKの家具つきアパートを借りて毎日日本食を食べてチェンマイ生活を楽しんでおられます。ご主人が家計簿を見せてくれたのですが、1ヶ月の生活費は家賃を入れて10万円でした。

医療や治安も良いが、たまたま私が行った時にはデング熱が流行っておりました。鈴木さんも8月にかかったようですが、今年はタイ全土で5万人から6万人かかったそうです。デング熱で死ぬ事はあまりありませんが、昼間出て来る蚊ににさされて感染してしまいます。緑の多いレストランなどでビールを飲む時は気をつけた方がいいでしょう。

それからチェンマイで一人暮らしをしている58歳の女性に会いました。安全だからという事でフィリピンからチェンマイに来たそうです。

この方は、床も風呂も大理石の1ルームのコンドミニウムに住み、チェンマイ暮らしをエンジョイしています。四星クラスのホテルのフィットネスクラブの会員になり、そこで泳いだり適度の運動をした後、そのホテルのロビーで備えつけられた日本の新聞を読み優雅な暮らしをしています。

その方は15千円の家賃を入れても1ヶ月5万円で暮らせると言っていました。フィットネスセンターの会費も年間4万5千円ですから安いなあという気がしますね。年金がどんどん減っていくことを考えると最後はチェンマイがあるなあと思った次第です。

冒頭に申し上げましたように体力がある限り、お金と相談しながらやりたいことをやり、行きたいところに行くつもりです。あるとき友人に、これからは我がままな婆さんになってやると話をしたら、あなたはもう充分我がままだと言われ笑われました。

11月末に「年金・月21万円の海外二人暮らし」の第二弾「ゴールドコースト・カイカス・チェンマイ編」を文芸春秋から発刊いたします。

今回は巻末に英会話事例集も掲載しました。これは南の会会員の渡辺元子さんにペナンで会ったときに、英会話事例集を載せたらどうかというアドバイスがあり、今回盛り込みました。値段を値切る場合の英語や、ホテルなどをFAXで英語で予約する場合のFORM(様式)も付けておきました。念の為、英語が間違っているとまずいので、友人の英国人にチェックしてもらっているのご安心ください。

——以下質疑応答——

Q. ゴールドコーストの季節はどうか？

A. ご存知のように季節は日本と反対で、6月から8月が冬ですが日中はショートパンツとTシャツで過ごせます。夕方は寒くはないが長袖が必要でしょう。

Q. 日本の家はどうしているのか？

A. 帰りたくなった時、あるいは帰らざるを得なくなった時の為に、費用は嵩むがそのまま置いておきます。今は死ぬまで海外にいるつもりはなく、体力がなくなったら日本に帰って生まれた高知で過ごそうと思っています。家の管理はセキュリティ会社に頼むこともできるが、私の場合は友人に頼み週1回の風通しや植物の水やりをお願いしています。

Q. スティ先が1ヶ所では飽きるのではないか？

A. 目的を持っていれば飽きないと思います。行ったり来たりは体力が必要ですが、今は何とかなっているのであっちに3ヶ月、こっちに3ヶ月という生活をしながら家探しをしています。

60才を過ぎると体力が落ちると脅かされているので、60才までには決めたいと思っています。

でも既に海外暮らしをしている方々は60才を過ぎても皆さんお元気なので、

わたしも大丈夫なのではないかと思っています。体力は気力ですからね。

Q. ポルトガルから滞在者が日本に帰るといのはなぜか？

A. 本人は帰りたくないのですが、体調が良くないので帰ることになったのです。奥様もここでご主人に死なれたら、一人で住むのは辛らいと言っていましたから日本に帰る事になったのです。

同じように思っている家族はハワイにもおりまして、この方はハワイにコンドミニアムを持ち投資家ビザで10数年暮らしていますが、ご主人にもしものことを考え、死なれたら思い出を抱えて暮らすのは辛らすぎます。ですから体力のあるうちに家売ってハワイに3ヶ月、カナダに3か月という風に暮らしたいと思っている、ということでした。

またポルトガルのセゼンブラという漁村に22年住んでいるご夫婦は、ご主人はここで終わると言っていました、そうになったら奥様は日本に帰るとおっしゃっていました。いずれにしてもポルトガルは日本から遠く、15時間から17時間かかるので、もし何かあったときに日本に帰る事を考えると体力的に辛らいところがあります。

それでも私はポルトガルはとてもいいところだと思いました。

Q. ポルトガルの滞在者はどんなビザで滞在しているのか？

A. 「長期滞在ビザ」です。条件は、

金融期間の残高証明書（これは滞在期間中の生活費があれば良いとされている。）

無犯罪証明書

健康診断書

申請用紙

渡航目的を書いた作文

以上の書類はすべてポルトガル語で大使館に翻訳を頼めばやってくれます。

もし、2000万円以上の収入証明があつて、健康的に問題なければリタイアメント・ビザも取れるようです。

Q. ポルトガル語ができないとだめか？

A. 最近の若い人は英語を話すし、年配者はスペイン語を話すのでまあ心配は要らないと思います。

(注) 立道さんはこの講演の後、南の会の会員（会員 No. 435）になっていただきました。

コスタリカ共和国の紹介・観光・ツアー

講師：コスタリカ共和国政府観光局日本代表 五十嵐 義明氏

当会ではコスタリカ共和国についてこれまで2回（本年新年号 33 頁と春季号 36 頁）紹介しており、今回の講演は具体的な同国へのツアーの説明が主体ですが、日本人にはまだまだ馴染みが薄い国なので、ここでは敢えて重複を恐れず国の紹介から記述しました。

講演要旨：

1. コスタリカ共和国の国情

- a) 中米の、日本人になじみの深いパナマ運河のあるパナマ国の北隣りにある九州と四国を合わせたほどの小国で、人口は現在約 400 万人（配付資料では 320 万人とあるが、国境を接するニカラグア、パナマから流入する難民で増加している由）、大部分がロマンカトリックのスペイン系白人からなっている。
- b) 気候は熱帯に属しているが、地形が変化に富んでいるため地域により異なる。例えば首都サンホセは高地（標高:1,200m）のため平均気温：22.5 度と一年中爽やか。その他の所も、日中は暑くても夜は冷える。12 月～5 月は乾期で花が開き非常に美しい。
- c) 軍隊を廃止し永世非武装中立を宣言、6,000 人の警官が国内および国境警備に従事したがって最大の武器はマシンガンとか。
- d) 産業はバナナ、コーヒー、カカオなどの農業と素晴らしい自然を対象とした観光業。この非常に豊かな自然環境を守るために国土の 1/4 が国立公園や自然保護区となっており、工業先進国になることを自ら放棄している。なお活発な火山活動を利用した地熱発電が盛ん、このため近隣国に電力を輸出している。また 3 年前に Intel 社が本社をこの国に移した。このことから大国アメリカの、この国に対する評価の高さが伺える。
- e) 国家予算の 24%を教育費（義務教育 9 年間は全て国費）に充当、このため識字率が中南米ではトップクラスと非常に高い。ちなみに小学校 1 年生の英語理解力は世界 1 とか。このように基礎教育の裾野が広いことより国民の文化レベルが高くアメリカに文句が言える珍しい国と言われる。
- f) 首都サンホセ： 人口 150 万人、アメリカの地方都市の印象、5 階建てのデパートあり、日本のスーパー「ヤオハン」あり、郊外に 5 ヶ所ショッピング・モールあり、メーターは付いていないがタクシーは多い、英語は比較的通じる。しかし難民が多いためか「ひったくり」などの軽犯罪は多い方。

2. コスタリカ共和国の自然

- a) かつて南北アメリカ両大陸が別々だった時代に大地殻変動があり、ここコスタリカの辺りで合体した。そのため現在でも火山活動が活発で、かつ両大陸の動植物がここを経由してお互いに広がって行ったため種類が豊富になったという。ちなみに鳥は 850 種（全世界の 10%）、また全世界の蝶の 10%もここにいると言う。鳥では世界に 200 羽しかいないという「ケツアル」、蝶では「モルフォ蝶」が特に有名。また動物では珍獣「ミツビシ・ナケモノ」が有名。
- b) 国連の自然環境事務所はコスタリカにあり、第 2 回自然環境サミットがここで開催された。
- c) 我々には馴染みが薄いですが、自然に優しい観光ホテル、エコホテル（合成建材等を使わ

ないと言う意味もある?)は世界に30軒、日本には1軒あるがコスタカには22軒ある。それほど国全体で自然を大切にしている。

3. ペンシヨナード・システム

*世界中の人を対象として30年前に出来た上記名称の移住制度があり、以下にその内の「年金生活用査証」について説明する。

a) 取得条件は、50才以上の場合、毎月600米ドル以上の年金収入があること及び既に現地に毎年4ヶ月以上滞在していること。

b) 現地申請時の必要書類(スペイン語)

*戸籍抄本

*無犯罪証明書

*母親の結婚前の名字(戸籍抄本をスペイン語に訳した場合に加えておくこと)

*健康診断書(コスタカで作成すると良い)など

c) 有効期間2年(但し年4ヶ月以上現地に居住する義務がある)、2年毎に更新可能。5年経過後に永住ビザを申請できる。

(注)先に配布した「南の会必携」、コスタカービザ説明中の「2年経過後に」は間違いでした。

d) 生活関連情報

*年金、月600ドルは22年前に決まった数字なので、そろそろ変わるかも知れない。

*首都サンホセにはアメリカからの年金生活者、数万人が居住している。

*フロリダにあるリタイメント・シティのようなものがある。

e) その他の生活関連情報

*最低生活費(中心部から1時間以上離れた所):住300ドル/月、食300ドル/月

*ホリデイパート:1200ドル/月(3~4星相当)

*物価はアメリカの地方並み

*親日感情はよい。但し彼らに台湾、韓国、日本の区別はつかない。

*医療事情:コスタカ人は医療費は全額保険充当、外国人は使えない。

4. ロングステイ希望者を対象としたコスタカツアー紹介:「ペンシヨナードの楽園コスタリカ」

a) 2002/2/11(月)~2/20(水), 209,000円(航空券、ホテル、運転手付き専用車代のみ)

b) ニューヨークのテロ以降アメリカ本土は危険なので、カナダトロント、キューバハバナ経由サンホセのルートとした。テロが落ち着けば通常のルート(ロスやメキシコ経由)に変更できる。五十嵐氏は同行される予定。

c) サンホセ3泊(市内観光、郊外見学)

サラヒキ2泊(カーニョネグロジャングルクルーズ、熱帯植物研究所など見学、タコン温泉観光)

*サンホセから90分のサラヒキ河を下ってゆく熱帯雨林クルーズ、種々の動植物に会える。

モンテベルデ1泊(モンテベルデ自然保護区見学)

*標高約1,500mの高地のクラウドフォレスト(120人/日限定)、ガイド付きで森の中を歩く。その他トロント2泊/機中1泊。

(以上内容は五十嵐氏にチェックして戴きました。文責:No.259 菊地 功)

3週間のバリ島一人旅 (ウブド16日・サヌール5日)

札幌市在住 会員 No.245 佐藤 真理子

2001年9月7日～28日まで私は初めての一人旅というのを体験しました。それは2001年6月に長女が会社を辞めてイギリスに、9月初めには次女もオーストラリアにワーキングホリデーにと、それぞれ旅立って行きました。

子供達に出来る事、私にだって出来るのではと思い、夫婦二人になった寂しさを感じる間もなく私は出発しました。(一人残された主人は寂しかった事でしょう。)

バリ島を選んだわけは、2年前に初めて行った時に治安の良さと、物価の安さ、ゆったりと過ごす事が出来るという事で、もう一度ここを訪れて見たいと思う気持ちからです。

今回は3回目のバリ島滞在です。でも一人で行くのは初めて。宿泊も最初の4泊しか決めていませんでした。後はメールで知り合った現地の方(女性)を頼っての出発です。

札幌は曇り空、小雨の降る中を9時30分に家を出発。今回はコンチネンタル航空の千歳⇒グアム⇒バリ島を利用しました。グアムでの待ち時間が30分なので、乗り継ぎも楽でした。バリ島到着が、夜の9時30分。飛行場には最初の宿泊先のスタッフが迎えに来てくれていました。彼は日本語が、話せたので私も一安心。1時間位で、ウブドのゲストハウスに到着!!そこで私をびっくりさせることが!!

最初のゲストハウスは札幌のダイビングが大好きな女性が自分のために建てた2部屋の家です。そこに一人で泊まるのはちょっと不安もあったのですが、なんと隣のゲストハウスに札幌で知り合った理恵さんが長期滞在していたのです。私は荷物もそのままの状態、長々とおしゃべりしてしまいました。彼女にはウブド滞在中色々お世話になりました。(2ヶ月の長期滞在の為インドネシア語が上手)。さーこれから私のワクワクするような体験が始まります……。

2日目の朝は、6月からウブドに移り住んでしまった由美さんが迎えに来てくれて、メールで知り合ったバリ島に観光で来ている東京の女性2人と、車をチャーターして1日観光をしました。途中の小さな村で、大掛かりなお葬式の『ガベン』を見学する事が出来



ガベン会場横でお店を開く子供たち



ガベン会場前で、左端が筆者。後ろはお棺

ました。バリ島ではお葬式はまとめてします。私達が見学したのは14体もの大きなガベンでした。遺体を入れる棺が牛の形や塔の形のものがいっぱいありました。近くでは食べ物のお店が出ています。私達のような観光客が大勢見学していましたが現地の人達はにこやかに接してく

れます。その後テガラランのライステラスを見学してカンプンカフェでランチを食べました。ナシゴレンがとても美味しかったです。観光の最後は2000ルピ（28円）のバクソーと言う春雨のスープのようなのを食べました。安さと美味しさにびっくり！！

ゲストハウスの夜は、近くの「アルマ」から毎日のようにガムラン演奏の音楽が聞こえてくるのです。涼しくなったテラスに出てガムランを聞きながら目の前はライステラスに蛍が何匹も飛んでいます。日本では味わえないゆったりとした時間です。

4日目は、午前中はマッサージに行って午後からガムラン演奏を2時間ほど習いました。この日初めてバイクの横乗りというのを経験しました。最初はドキドキでしたが、なれると車より早くて便利です。

5日目の11日は新しい宿泊先に移動です。スエタ通りの「スナルタ」と言うゲストハウスです。オーナーはバリ人で家族の敷地内にお部屋が7個。私の部屋は、2階の見晴らしの良い新しい所。(1階部分はただいま建築中でした) 広さはホテル並で、価格も一泊25万ルピを一人で泊まるということで15万ルピ(2100円)にしてくれました。この他に10万ルピ(1400円)のお部屋も見ましたがとても良かったです。ここは居心地が良かったので7泊しました。オーナーもスタッフも日本語がしゃべれます。小学生の子供達は日本の歌を歌っていました。9割が日本人の宿泊者でリピーターが多いと聞きました。日本からは電話で申し込みます。



1泊1400円のバンガロー

6日目の12日は、昼食を理恵さんと「カフェロータス」で、済ませて帰りにインターネットカフェで、メールのチェックをしていたら、日本人の女性二人が入ってきてなんだか騒いでいます。どうしたのか尋ねると昨夜母親から電話でアメリカのテロ事件の事を知らされたそうです。私も早速検索して見ましたが、詳しい映像を見ていないのでなんだか実感が沸きませんでした。向こうではテロ事件の報道はあまりしていませんでした。

ですから日常は普段と変わらない平和なときが流れていました。

13日・14日と二日間で、現地の建築屋さん(日本人)に案内していただいて由美さんが今建てているゲストハウスや、お友達の家を拝見したりタンバクシリンというウブドから30分位の地域にこれから10軒建てる予定の別荘地を見てきました。又、建築屋さんからも色々なお話を聞く事が出来ました。とても参考になりました。今、バリ人と外人の結婚がすごく増えているそうです。彼はバリに住んで5年目だそうですが、治安は良い所と言っていました。

15日は、バリ島に来て2回目の観光です。クルンクルン・チャンデイダサ・トゥガ

ナンと見て回り、夕方帰ってきました。

其の日の夕食は一人で近くの大きいレストランでバリ舞踊を見ながらいただきました。食べ終わって30分もしないうちに身体中に蕁麻疹が出てきてなんだか心臓の鼓動が早くなりました。心配になってきてとりあえず宿まで帰ったのですが1時間たっても心臓の鼓動が、普通に戻りません。このまま死んでしまうのではとか色々考えていたら不安になってきたので由美さんにとりあえず電話してみました。

彼女はすぐ飛んで来てくれて私を「ウブドクリニック」と言う24時間開いている病院に連れて行ってくれました。病院はインドネシア語です。当然私は解りません。ドライバーの方が説明してくれて私は注射をされて宿に戻ってきました。

薬を飲んでぐっすり休む事が出来て次の日の朝は蕁麻疹も消えて元気になりました。それでも一応クリニックの先生が往診してくれました。ゲストハウスのスタッフも心配してくれて朝食にはおかゆを作ってくれました。又、暑い中、由美さんが昼食に食べてと、おかゆを作って届けてくれました。彼女には本当にお世話になりっぱなしで、感謝・感謝です。

私は外国旅行で初めて病気になり、保険は「アメリカンエクスプレス」のカード保険を使いました。病院にカードと、パスポートのコピーを渡したら手続きは終わりです。支払いは、何もしませんでした。帰ってきてからも請求は来ませんでした。

18日は、新しい宿泊先に移動です。「カキアン」というお部屋が10個ほどの小さなゲストハウス、プールも有ります。夕方には手作りケーキとアフタヌーンティーが、はこばれてきます。オーナーは日本人女性でマリンちゃんという可愛い女の子のお母さんです。後でわかったのですがここはインターネットで予約したほうが安いです。1部屋30ドルだそうです。

ホームページアドレス www.tctvnet.ne.jp/~kakiang/index.html

22日は、メールで知り合った三重県の方の紹介でデンパサールに住んでいる現地のバーバさんの家に行って本場のお料理を習いました。家庭料理はとても美味しいです。奥様のゴルシさんは縫い子さんを使ってお洋服を仕立てています。私も、たのんでおいたスカートが出来てとても安いのにびっくりしました。裏地と仕立て代で、5万ルピ(700円)です。

23日。今日から今回初めてのサヌール地区です。ここでお世話になるのは、バリ島に旅行に来る1週間くらい前にホームページで知り合った私達夫婦と同年齢のご夫婦です。2000年の5月からサヌールに家を借りて住んでいます。3ベッドルームにダイニングとキッチンそれに広いお庭があって、家賃は年間約60万円位と言っていました。

12時に迎えに来ていただいて、夜の8時近くまでサヌールとヌサドゥア、ブノアの方まで足を伸ばして賃貸の物件を見て回りました。

ブノアでは、バリ島で生活して半年の77歳になる女性を紹介していただきました。『バリの生活はいかがですか?』と聞いたら『最初なれるまでは帰りたいと思ったけど2ヶ月過ぎた頃からここは食べ物も美味しいので帰りたくないです』と言っていました。

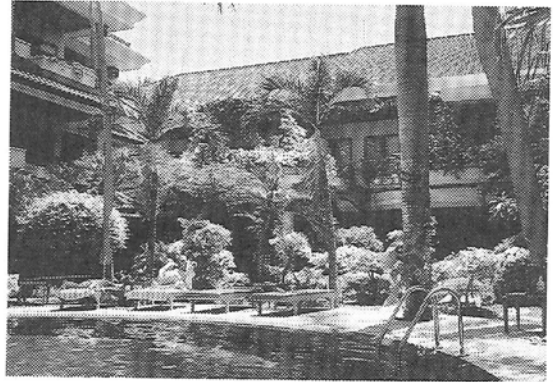
其の言葉を聞いて、なんだか自分の将来に希望が持てました。ご夫妻には、スミニャックや、デンパサールに住んでいる日本人女性の家に連れて行って頂いたり、お友達の家で家庭料理をご馳走になったり、観光地のタナロット寺院を見に行ったり、サヌールで生活する為の知識を色々教えていただきました。(郵便局・銀行・スーパーマーケットなど)

サヌールでの宿泊は「パリガタ」という出来て半年しか経っていない新しいホテルに45ドルで、宿泊しました。38室でプール付き・朝食税込です。パンフレットには90ドル以上の価格が書かれていました。

バリ島でのホテルの価格は現地で交渉してから宿泊した方が良いと思いました。

サヌールの街は、小さいですがタクシーも走っていますし、夜遅くに一人で歩いても危ない事はないです。

私は一人で現地の人が乗っている「ベモ」にも乗りました。1回500ルピ(7円)です。



パリガタホテル

26日は、南国に来たのだから海にも入らなくてとはと、サヌール海岸で船に乗って沖まで行ってシュノーケルをしました。ぷかぷか浮いて綺麗なお魚とさんご礁を見ていると時間の経つのも忘れてしまいます。

最後の日の朝、6時にホテルの裏の海岸に行き朝日を見ました、4泊して初めでしたが、とっても綺麗でした。

今回サヌールの滞在は短かったので次回は、是非長期で滞在して見ようと思います。

3週間はあっという間でした。一人旅と言うことで出発したのですが、メールで知り合った方たちにお世話になったり現地の旅行者と夕食を食べたりとか、何時も誰かと一緒に、寂しいと思う事はほとんど有りませんでした。病気になったときは、心細かったのですが、保険の使い方も解りましたのでこれも良い体験だったと思います。次回は、言葉も勉強してもう少し長期で滞在したいと思います。

ネットカフェ ウブドもサヌールもちょっと歩けば日本語対応が、ありました。とても便利で、私は主人と子供たちと常に連絡をとっていました。

CITEIBANKU 今回の旅行は現金をあまり持って行かないで日本で入金しておいて、現地通貨でおろして使いました。ATMは、何処にでもあるのでこれは便利でした。

ワーター 日本で言う公衆電話のようなもの、場所によって金額が違いました。スナルタに泊まったときの近くが一番安かったです。

食 事

ウブドは美味しいお店がいっぱいあります。日本食もイタリアンもフレンチも中華も、ジャズカフェも。お米が無農薬なので美味しかったです。家庭料理を3回食べましたが、これが一番美味しかったかな？

ガルンガン

9月25日から27日は、バリ島の『ガルンガン』です。日本で言うお盆のようなもので、街中のお店はほとんどお休みです。ホテルの従業員もほとんどいませんでした。

バリ島は、仕事より村のお祭りが優先だそうです。

バリ島の価格（1000ルピで、14円くらい）

- ミネラルウォーター（1.5リットル）…1650ルピ（23円）
- 米5キロ（日本人が普通に食べれる）…17000ルピ（238円）
 - “（日本米と同じで高級）…65000ルピ（910円）
- パン…2700ルピ（38円）
- たまご（10個）…4950ルピ（69円）
- マンゴスチン3個…6200ルピ（87円）
- パイア大きいの半分…2500ルピ（35円）
- 生フルーツジュース…6000ルピ（84円）
- ドーナツ（ミスドーンみたいな）…3000ルピ（42円）
- レストランで、カルボナーラスパゲッティ（日本より美味しい）…24000ルピ（336円）
- 現地の人が食事する所で、食べたとき…6500ルピ（91円）
- 屋台で夫婦2人で夕食（とても美味しかったそうです）…110000ルピ（1540円）
- タクシー初乗り…3000ルピ（42円）
- コピー5枚…1000ルピ（14円）
- インターネット1分…300ルピ（4.2円）
- 切手（日本までのAIRMAIL）…4000ルピ（56円）
- 36枚フィルム…21500ルピ（301円）
- 日本にFAX…29000ルピ（406円）
- 人件費：（お料理がとっても上手なメイドさん）…25万ルピ（3500円）
 - 1日2時間くらいでお掃除とかを頼んだ場合…10万ルピ（1400円）

*注…（ ）内の円換算価格は編集部で計算。

ロタ暮らし近況

ロタ在住 会員 No. 398 山本 隆

南の会の皆様 お久しぶりです。

12月は太陽の位置が最も南に遠ざかる月、強かった太陽の日差しも弱くなり気温も低下し、しのぎ易い天気が続くようになりました。これから3月にかけて気温、湿度とも低くなり1年中でもっとも過ごし易い時期を迎えます。

北東の貿易風が吹き抜け、窓を年中開けはなっている我が家でも裏山のジャングルから緑の風が24時間吹き込んで、寝ている間も森林浴しています。気温が低く目になると言っても海水の温度は26度以上あり、水泳やスノーケリングも体が冷える事を心配することなく何時間でも海に浸かっている事が出来ます。日本列島が寒波に覆われ空気も乾燥し、インフルエンザ等風邪が流行し、神経痛も出やすい時期だけにとっても有り難い事だと思っています。

さて最近の我が家の話題を1-2お知らせ致します。

12月にロタに住んで満3年を迎えました。すっかり生活が定着しました。今年はアジが沢山港に入って来ており、去年までは刺し網がはいり1-2か月で居なくなったのに今年は禁止になり、既に4ヶ月も大群が小さな港に居続けています。しかも当初10数センチだったのが20数センチにまで成長しています。アジの種類はメアジでマアジによく似ています。そして釣ってよし、食べてよしの魚です。水がきれいなのでアジの群れは黒い塊となり岸からでも良く観察できます。この黒い塊にむけ岸から20-30m程仕掛けを投げ入れるのです。ちょっと専門的になりますが仕掛けはさびきの一本釣り、針の先に薄いゴム手袋(通称スキン)の切れ端をつけますが、釣り人は各自それぞれ仕掛けに工夫を凝らし簡単なように見えてなかなか奥が深い釣りです。朝晩の薄暗いとき喰いが良く最も釣れます。多いときは1-2時間で20匹以上も釣った事があります。釣れたてを刺身、塩焼き、酢味噌、南蛮漬等美味しく、とても夫婦で食べきれないので大部分は島の知り合いにあげます。(魚、果物、野菜など店で売っていなくても結構知人や親戚間であげたり、もらったりして流通しています。勿論お金は介在していません)家内はすっかりこの釣りの面白さにはまりこんでしまい、仕掛け作りは勿論日本に帰ると自ら上州屋に足を運んでいます。このようにここ2-3カ月は夫婦で車で5分の港に朝晩日参しています。朝は日の出前残り星を見ながら釣りを始め、夕方は満天の星の瞬きと共に竿を納めますが正にこの時自然に溶け込んでしまっている自分を発見します。

圧巻はこの港で大物を釣った事です。アジを追って磯マグロやカスミアジが日の出頃小さな港に入り込んできます。追われたアジがあちこちで水面を沸き立たせる時魚に似せた大きな(15cm程)ルアーを投げ入れ、水面を引っ張ってくると水面に大きな波紋と飛沫が上がり、大物がルアーをくわえ、一気に引っ張って行きます。大物がルアーをくわえる一瞬はちょっと心臓に悪いほどどきどきします。それから強烈な引きなので手許に寄せるまで5-10分のやり取りもどきどきものです。魚が大きすぎてやり取りを誤ると一瞬にして糸が切れルアーごと持っていかれるのです。最近釣った大物の最高は磯マグロ1m、10kg超、カスミアジ75cm、7kg程です。アジを常食している為か脂がのって南の魚とは思えない美味しさです。毎日釣れる訳ではないのですが一週間毎日釣れた日もありました。まだこの釣り方(大型のルアー)が島で一般的でないので魚がまだすれてなくよく釣れるのでしょうか。小さな港でこのような大物が

釣れるのは驚きです。その内に同じ釣り方を始める島民や出稼ぎのフィリピン人が増えるかも知れませんが、今のところ1人ひっそりと大物ルアー釣りを楽しんでいます。港でのアジつり（とアジについてくる大物釣り）のシーズンオフ入りは間近ですが、朝夕潮風に吹かれながらの釣りはアジが港に居座り続ける限り続きます。

11月にロタで毎年行われるトライアスロンがありました。120人の出場者の大部分は日本からの参加者でした。このスポーツ大会については昨年の試合の様子がJALの機内誌WINDS9月号でもカラー7ページで紹介されました。今年は初めて出だしの水泳だけ出場を予定した私ですが、残念ながら前夜の嵐で海況が悪く水泳は中止となりました。試合が終わった後の浜辺のパーティーにも出ましたが試合後の開放感で日本や外国、地元の若いアスリートを中心に大いに盛り上がっていました。実は今回主催者の方より来年のトライアスロンの出場を持ちかけられ一台の中古のバイクを預けられました。4時間以上も泳ぎ、乗り、走り続ける競技で果たして還暦の体力や心臓が持つのか心配もありますが心は参加してみたい方向に動いています。

のんびり生活をしていてもやっぱりハードルを設け心と体にプレッシャーをかけ、健康と老化防止の一石二鳥を狙うのも良いなと思いはじめています。なんと言っても若い人たちに混じり完走する喜び、試合の後の開放感をあじわいたくって。まだ一年先の話ですが... 先ず体作りから始めなければなりません... 何れまた結末を報告したいと思います（生来の怠け癖が出て途中で挫けなければ... 体力的にギブアップしなければ... 病気になるなければ... と条件が沢山つきますが）

あー その前に（4月に）オープンスイムがあります。こちらの方は今年と同じく1マイル（1.5km）参加予定です。年が明けたらぼちぼち海で水泳の練習を始めなければと思っています。釣り、ゴルフ、庭仕事、水泳/自転車/マラソンの練習、インターネット等忙しくなりそうです。

以上ロタ暮らし近況でした。

（2001年12月11日 記）

メーリングリスト ミニ情報

No94の高橋です、コタキナバルに興味をお持ちのようですね。私も今心が揺れ動いている所で、先のメールで「ホテルの裏の」とありましたがプロムナードホテルの事でしょうか、だとするとその裏にあるのはアピアピセンター内のアパートになると思います。もしそうでしたら、間取りや、部屋の一部の写真のあるホームページがありますのでご覧になっては如何でしょうか。

URL <http://www.tokojaya.com.my/Apartm~1.htm> 岐阜 高橋 昭

会員番号 94 の高橋です。下記アドレスはゴールドコーストの不動産探しにべんりなH/Pです

<http://www.realestate.com.au/> <http://www.australiajapan.com/>

302 SUE です。マレーシア国民大学の日本人講師 「伴 美喜子さん」 の骨太のHPです。テロに関する当地の官民の情報、イスラム文明、西洋文明の対比等も説明されています是非、ご覧になってください。お勧めです。

<http://www.02.246.ne.jp/~kiara/>

パース ロングステイ一人暮らし

会員番号 315 鈴木 剛

私はただいまオーストラリア 西オーストラリア州のパースで2001年11月18日から一人暮らしをしております。昨年パースに家内と15日間、友人と15日間の2回ショートステイをしました。この間パースのすばらしさを垣間見たわけですが、今回は暮らすということに主題を置き、将来のロングステイを視野に生活して見ることにしました。



パースの中心地

今回家内は母親の世話と年老いた犬がいるため一緒に来ることが出来ず、単身赴任(?)となりました。すでにパースに関しては会員の藤本氏が会報でレポートしておりますが、ご案内のとおり大変暮らしやすい街だと実感しております。この街はロングステイの条件を満たすところです。すなわち安全・暖かい・清潔・物価が安い・海がすばらしい・医療がしっかりしていることです。しかも住んでいるオーストラリアに人が笑顔を絶やさず人にやさしいのです。特にゴルフ・釣りファンには費用をかけず楽しめるパラダイスです。かつて兼高かおるさんが「世界で一番住んでみたい街」と言った街パースの生活体験報告いたします。

生活物価

すでに藤本さんが克明に報告しているので補足的な報告になりますが、既報のとおり肉や野菜の生活物価は安くついうれしくなって余計に買ってしまうほどです。現実的な話ですが、私がこちらに来てから1ヶ月たったところで集計したところ食料品の購入費用は19,000円でした。(この購入した食料品はまだ冷蔵庫に沢山残っていることからするともっと少ないのではないかと思います) この費用は現地の人の標準的な生活レベルで特別に切り詰めているわけではありません。

あえて言えば、こちらに来てはじめて釣りのおかげで魚は自前であったり、こちらのB&Bの森本洋子さん宅にお世話になったりして食費は少なくなったりしていますが、それにしても余りかかっていません。

こちらに来る前に家のオーナーの湯口さんから月2万円あれば大丈夫ですよと言われて、半信半疑でしたが今は実感としてそのとおりだと思っています。いずれにしても夫婦2人で住んでも食費は月3万円あれば十分でしょう。

先日パースにいらっしゃったご夫妻の奥様にスーパーにお付き合い願ひ感想を聞いたところ日本の2分の1から3分の1の物価と言っておりました。

交通

西オーストラリア州は財政的に豊かであるせいか、ゼロゾーンと言われる区間は電車

もバスも無料です。私は中心から20キロほど離れたフリーマンツルの近くに住んでいますが、パスまでバスと電車を乗り継いで2.8ドル(180円)です。日本だったら500円以上はかかるでしょう。

私は自動車を使わず、もっぱら自転車とバスと電車を使っていますが、不便は感じません。車の渋滞はほとんどなく、20~30キロ圏内に住んでいても市内まで15分から20分です。レンタカーは1日68ドルくらいですが、1週間以上借りるととたんに安くなり一日23ドルになります。

住宅

住宅は地震がないことからブロックを積み上げる平屋がほとんどで、200坪以上の土地に70坪の家が標準的です。建築法はシンプルでダブルブリックといってレンガを二重に積み上げ、レンガとレンガの間に隙間を作り外気を遮断します。したがって夏は涼しく冬暖かい構造になっています。真夏は40度くらいの日もありますが冷房は不要です。私が借りている家も冷房装置はありません。

賃貸

賃貸は家の場所や広さによって違うと思いますが、私は一週間1万円で1DKの家具付きの家に住んでいます。この賃料の評価はいろいろあろうとは思いますが、6ヶ月以上の契約の場合では

1. こちらの日本人留学生が週170ドル(11000円)で広い一軒家(家具なし)を借りていますが、相場より高いと言ってぼやいていました。
2. 定年後留学生ビザでこちらに来ている方の例では、2Kバス付の部屋で週125ドル(約8000円)の家具付のアパートに住んでいます。
3. 不動産業者の広告を見ると、1週間130ドル(3ベッドルーム・1バスルーム・ガレージ1台)から260ドル(4ベッドルーム・2バスルームガレージ2台)で掲載されていました。

住宅の購入

こちらで大手不動産会社に勤務する森本真一さんに新築・中古の物件を20件以上見せてもらいました。場所と環境・広さによって千差万別ですが、2000万円から2500万円で標準的な4ベッドルームの家は購入可能です。日本でいうと豪邸の部類には入りません。ちょっと中心を離れば1000万円くらいでの購入も可能です。



日本で言う豪邸

暮らし

冒頭に申し上げましたように物価が安く、豊かな自然に囲まれた清潔な街ですから、とても過ごしやすいと思います。どんな生活や身なりをしていても、変な目でみられ

ることはなく気軽に声をかけてくれるので、私はTシャツと短パンの気楽なスタイルで動き回っています。

レジャー・スポーツ

ゴルフ

私はゴルフが大好きですが、借りている家から10分ほどのところにあるパブリックのゴルフ場に毎日通っています。9ホールで8ドル（500円）です。東京にあるパノラマ・インターナショナルというパース専門の旅行会社は、「ゴルファーズパラダイス」といっているくらいです。中心部から1時間以内のところには20以上のゴルフ場があるのだから堪えられません。

しかもパブリックの料金は20ドルくらいです。パブリックといってもコースメンテナンスはすばらしく日本の一流コースにひけをとらないコンディションです。

フィッシング

パースに来たら釣りをしないのはもったいないと言われ、私もはじめて釣竿をにぎりましたが、ものの2時間ぐらいでアジ・さばを5尾つりあげました。こんなに簡単に釣が楽しめるとは思いませんでした。いまでは自ら一人で釣に行くほどになりキスやカレーが釣れ驚いています。



30cmのカレーを釣り得意満面の私

あわび採り

毎年11月から12月初めにかけて毎週日曜日はあわび採りが解禁になります。

25ドルのライセンス料を払えば、1日20個まで採ることができます。私も2回あわび採りに行きましたが、安全な岩場にあわびが採ってくださいと言わんばかりに磯に張り付いています。採ったあわびをさっそく刺身にして食べましたがそのおいしさは格別です。一人では食べ切れませんから残りは御客さん用に冷凍し保存してあります。私は2月末まで滞在を予定していますので、この間こちらに見えた方はご賞味いただけます。

サザエ

サザエはライセンスも要らず1日6個までとっていいことになっています。あわびを採りながらサザエも採れるという次第です。

クルージング

こちらでは極普通の人がクルーザーをもち、舟遊びや釣を楽しんでいます。



豪華なクルーザー

船も日本と比べたら格段に安く、中古であれば8000ドル（50万円）くらいからモーターボートが買えます。ですから自宅のガレージに船を泊め、休みの日に車で牽引している若い夫婦をよく見かけます。私もこちらに在住している小松崎さん操縦の船に乗り楽しんでおります。このクルーザーは豪華な方で、全長33フィートでベット・トイレ・キッチン・シャワーなどがついています。33万ドル（約2200万円）です。船の運転には免許はいりませんが、一人で動かすことができないので仲間が必要になります。

自転車

こちらは老若男女派手格好でマウンテンバイクに乗り、市内・ウエストコーストとサイクリングを楽しんでいます。電車の中に自転車を持ち込むことも可能なので最寄り駅まで自転車で行きそこから自転車でツーリングする生活を楽しんでいます。

ジョギング

住宅街・公園の緑の中や、海岸を潮風を受けながらのジョギングやウォーキングが楽しめます。朝夕に限らず昼間でもオージーが走ったり、歩いたりする姿をそこかしこで見られます。

その他

バーベキュー

公園にはバーベキュー用の立派なレンガ造りのコンロが用意され、電気のスイッチを押すと電気が入り誰でも無料で使うことができます。したがって日曜日になると家族連れやグループでバーベキューパーティーをやっているシーンをよく見かけます。私も採れたてのあわびとオージービーフのバーベキューパーティーに参加させていただきましたが、澄み切った青空の下でのバーベキューとビールは最高です。

パソコン

今回パソコンを持っていきましたが、改めてその便利さを実感しています。友人とのメールのやり取り、日本に残っている家内とのコミュニケーションに欠かすことができません。果ては、夕食のメニューまで家内と情報交換する始末です。驚いたのは通信料ですが、こちらは従量制ではなく回数制なので何時間使っても通信料は定額です。1回あたり25セント（16円）ですから、ただみたいなものですね。

気候

温暖で時には40度近くなる夏と、冷涼で雨の多い冬が特徴の地中海気候。夏の平均気温は昼間29度、夜間は17度。今（12月）は初夏で外気は軽く30度は越しますが、室内や木陰は22度です。特にいつも海からの風が吹き外に出ても気持ちがいい感じがします。

日本情報

NHK

日曜日を除き前日の夕方7時のNHKニュースが見られます。

情報誌

パース市内の日豪センターへ行けば、WA(Western Australia)ニュースやパースエキスパレスという日本語フリーペーパー情報誌が手に入ります。

日本食

ほとんどのものが手に入るので不自由しません。

医療事情

パース駅前に「日本語医療センター」という機関があり、24時間日本語フリーダイヤルを持ち、日本人通訳が常勤しています。全科の診療が可能で女性医師もおります。しかも日本語説明つきの薬をその場で受け取れる体制を取っています。

お世話になっている方々

森本 真一さん

大手不動産会社に勤務し、多くの物件の紹介と不動産情報の提供を受けました。商売抜きで相談に乗ってくれますので、興味のある方はメールで直接相談してみてください。

メールアドレス ie0011@bigpond.com
ホームページ <http://ie0011.hoops.jp>
電話 9204-1015

森本 洋子さん

森本 真一さんのお母さんで、パース在住10年のパース通。

自宅をB&B(BED&BREAKFIRST)にしており、一人1泊2食付で5000円です。(送迎費用・近郊のツアー費用を含む)一ヶ月の場合は、10万円です。とても面倒見の良い方で、私は「BIG MAM」とか「段取りの洋子さん」と呼んでいます。釣りのレッスンなどプラスアルファのサービスが期待できます。

メールアドレス yoko@firedream.net
電話 9446-5271



私の住居

湯口 正宣さん

私の借りている家のオーナー(家は3組が住める設計で4ベッド・3バス・3キッチンの定員7名)。

冒頭に申しあげましたように1DKの部屋をかりていますが、他の部屋が空いている

ときは自由に使わせてもらえます。

オージーやヨーロッパの人に人気の港町フリーマントルから10分のところにあります。交通の便が良いので、車がなくてもバスと電車で十分生活できます。

メールアドレス info@swanhouse.com.au

ホームページ <http://www.iiib.com/trust/au/perth/>

電話 9 4 5 6 - 0 9 3 7

WESTEND TRAVEL (社長の福山さん、社員の石塚さん)

昨年パース訪問の時に世話になった旅行会社。

日本にあるパース専門の旅行会社パノラマインターナショナルの子会社で、長距離の観光ツアーや航空券の手配にも親身になって相談に乗ってくれる。

電話 (08) 9325 7555

Neil Darbyshire

フリーマントルゴルフコースの責任者で、PGA Golf Professional Neilさんは、日本のゲーリープレーヤー真名子ゴルフアカデミーでインストラクターをやっていた日本通で日本語が堪能

小松崎さん

ヨットクラブに入りマリンスポーツを楽しむヨットマン。もちろんクルーザーの操縦のベテラン。彼の操縦でフリーマントルから10キロほど離れた島にクルージングし、イルカと遊んだりサザエ採り・釣りと、日本ではなかなかできない体験をしました。



小松崎さん

以上まとまりのない報告になりましたが、ご参考になればと思います。

会報が会員の皆さんに着く頃はまだパースにおりますので、関心のある方はメールをください。

メールアドレス szk53@titan.ocn.ne.jp

補足 1ヶ月生活したところで生活費を集計したら以下になりました。

家賃	40000円	交際費	15000円
食費	20000円	雑費	15000円 (ゴルフクラブ
酒代	10000円	の修理代・釣具の購入代など)	
ゴルフ	30000円	計	132000円
交通費	20000円		

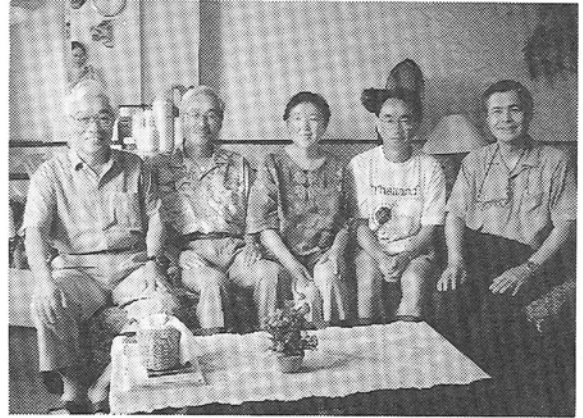
タイ、チェンマイの病院事情

東京都町田市在住 会員 No. 59 米田 隆雄

11月4日から6日までチェンマイに訪れました。短い訪問でしたが、目的は、日本からの旅行者、長期滞在者が病で倒れた場合でも、安心して滞在できる街であるかどうかを調査することでした。

到着前に、インターネットでチェンマイ市及び周辺にある病院の一覧表を作り、どこを訪問すべきか思案していましたが、判断材料がなく、困っていたところ、現地で既にロングステイされており、入院の経験もある鈴木夫妻から、それは、まず私立病院の中で最大のチェンマイ・ラム病院に行くべきだとのアドバイスを得た。

そして、早速、到着日の翌朝9時に、すでに暑い太陽の照る中を、オーキッドホテルから徒歩（たったの5分）で、訪問しました（日本人通訳のいるもう一つの病院も行ったのですが、チェンマイ・ラム病院に比べ、設備がかなり劣るので、報告は割愛します）。



左から水間氏、鈴木ご夫妻、西氏、筆者

チェンマイ・ラム病院 (Chiangmai Ram Hospital) は、1993年に設立された、タイ北部で最も医療設備の優れた総合病院の一つであり、チェンマイ市の中心部に位置しています。タイ在住の日本人が安心して受診できるよう、日本人に対し大変な気配りをしている病院です。

玄関を入ったところ、内科、外科、受付等々、の日本語が目に入りまず驚きました。院内の表示が日本語でもなされ、受付用紙も日本語で記入でき、病気のタイ語、日本語の対照表もあります。

待合室も広く、日本の病院のように混んでいない。受け付け嬢は英語が流暢であり、訪問目的を説明し質問をしようとしたところ、日本人がいるので、彼と話してもらった方がよいだろうということで、その方が出て来られるのをしばらく待った。杉本さんという40歳前半の好青年で、土曜、日曜を除く毎日午前中、勤務しておられ、当病院に来る日本人患者の通訳を引き受けておられる。現地人の奥さんと結婚され、当地で既に6年在住されている。いろいろと親切に話して下さったが、その間も、病院内からだけでなく、病院外からも電話が彼の携帯電話にひっきりなしに掛かってくるなど、チェンマイの日本人社会から頼りにされている様子が、ありありと伝わって来ました。



チェンマイ・ラム病院

われわれに取っては、病気になった場合の費用支払いが一番気にかかることですが、杉本さんの話では、当病院では、海外旅行保険に入っているか、旅行保険付保のクレジットカードに入っていれば、(持病でない限り) キャッシュレスで治療を受けれるとのこと。何故なら、この病院では、殆どの日本の保険会社と提携しているからである(東京海上、安田海上、三井海上、日産火災、住友海上、AIU 等々)。持病の場合は、現金で一旦支払い、後で、日本に帰国してから、国民健康保険から払い戻してもらうことになる。つまり、領収書と病気治療明細書を日本語に訳し、厚生省のフォームに記入して社会保険事務所に送れば、日本での治療相当費用が払い戻しされる。ただ、時間がかかるし、翻訳に A4 サイズ 1 枚、4,500 円取られるので(自分で翻訳出来ない場合)、高額の治療を受けた場合しか、意味がない。なお、手術の場合は親族の同意書が必要。以下、病院の概要を述べます。

外来部門

外来患者の受け付けは午前 8 時から午後 8 時まで。土曜、日曜も営業しているので、週 7 日オープン。現地人は土曜、日曜の来院が多い。患者が少ないのは火曜、木曜。総合病院だけあって広範囲の診療を受けられる(外科、内科、整形外科、耳鼻咽喉科、小児科、眼科、産婦人科、心臓外科、循環器科、麻酔科、脳神経科、歯科、皮膚科、泌尿器科、運動療法科、放射線科)。診察料は大体、500 ないし 1,000 バーツ(約 1,500 円乃至 3,000 円)。それ以外に検査料金と薬代。鈴木さんの話によると、現金で全部払ったとしても、日本での健康保険の個人負担分ぐらいのものということでした。

救急部門

救急部門は 24 時間営業。ヘリポートも持っている。夜間の急患に備え、臨床検査室、放射線部門、薬剤部は 24 時間稼働。勿論、救急車で迎えにも行くし、退院時、必要なら自宅へ送っても行く。入院患者の自宅への荷物取りにも救急車が出掛けてくれる。市内と市外 4-5 キロぐらいまでは無料。これは病院のサービスであるとのこと。鈴木さんも二週間ばかり、蚊にかまれデング熱にかかって、入院する破目になり、退院時、救急車で自宅へ送ってもらったとのこと。

入院部門

ベッド数は、350 床あり、いつでも患者を受け入れられる態勢になっている。病室も 4 種類あり、全室にエアコンとバスルームがついている(日本よりよい)。

4 人部屋(バスルーム 2、ソファ 1)

2 人部屋(バスルーム 1、ソファ 1)

個室(バスルーム、カラーテレビ、電話、リビングセット、冷蔵庫)

特別室(個室と同じ設備に付き添い人用ベッドルーム)

料金は、例えば、個室は 900 バーツ (約 2,700 円)。これに、看護婦付きとする
と余分に 700 バーツ (約 2,100 円)。家族も付き添いで眠れるようにベッドに転換でき
るソファがあるので、鈴木さんの奥さんも泊まりこみで付き添ったとの由。なお、入院
中の食事は、タイ料理、インターナショナル料理、日本料理から選択できる。但し、食費
は入院費用外。

最新の医療設備

CT スキャン、MRI、超音波診断装置などもあり、また、小手術から、開胸手術など高
度な外科手術もできる設備とスタッフを揃えているそうです。

健康診断

いろいろなコースがあり、日本の半日から一日人間ドックと内容は変わらない。ただ、料
金は、全然安い。例えば、次の三つの内容を持つ検査コースが、4,000 バーツ (約 12,000
円)。

<プログラム 1>

- 血圧、体温、内科診察
- 血液型
- 赤血球、白血球、血小板の数値
- 血糖値 (糖尿病チェック)
- コレステロール
- 尿毒チェック
- 検尿
- 肝機能チェック (SGOT, SGPT)
- 検便
- 胸部レントゲン

<プログラム 2>

- 心電図
- (女) 乳癌、子宮チェック、(男) 前立腺チェック
- 尿素窒素
- 腎機能チェック
- 肝機能チェック
- 中性脂肪
- 善玉コレステロール
- 悪玉コレステロール
- 尿酸

<プログラム 3>

- 上腹部超音波検査
- バリウム大腸注腸造影

結論としては、チェンマイで病気にかかっても、費用面、そして、医療設備面でも、全く心配要らないということです。むしろ、費用が日本に比べ、格段に安いので、精神的な負担がかからず、恐らく、病気の治癒も早くなるのではないのでしょうか。 以上

メーリングリスト・ミニ情報 ①

会員の皆さん、年末の忙しい時申し訳ありません。

このたびペナンに長期滞在したい方が、飼猫と一緒に連れて行きたいのだが、手続きなどを教えて欲しいとの連絡がありました。当方にはその資料が無いので皆様から情報を提供して下さい。 1、日本で準備する物など。

2、成田での検疫手続き。

3、マレーシアペナン空港での検疫、手続きなど。

特に KL にお住まいの末様、KL 日本人会の体験者がいらっしゃいましたら宜しく御願いたします。マレーシア観光省に問い合わせたら、その関係の資料は無いが、獣医の英文の証明書などを持参し、空港の検疫所で1週間程度置いておかないと、引き取れない程度しか分からない。実際に体験した人の情報が良いでしょうとの事です。皆さん宜しく御願いたします。では皆さん良い新年を御迎えください。

酒匂 景輝 拝

メーリングリスト・ミニ情報 ②

KL 住人の SUE です。「犬」の持込については以前に調べたのですが、ネコについては判りません。何れにしろ、役所が絡みますので、日本側は動物の検疫関係の役所そして受入国のマレーシアの情報が必要ですね。次のサイトは犬に関してですが、参考になると思います。ペットの持込に関する情報源です。

<http://www.animal-quarantine-service.go.jp/aq1/aq12-1.htm>

http://member.nifty.ne.jp/fox_b/ovs/

日本のマレーシア領事館で親切に対応してもらえたとの情報が有ります。

TEL 03-3476-3840

FAX 03-3476-4971

余計な事かもしれませんが、ペナンでのお住まいはどうされるのでしょうか。買われるのでしょうか、借りられるのでしょうか。共同住宅であれば、オーナー始め住人コミッテの了解が必要かもしれません。そちらの方がご苦労されるのでは。もし解決済みならば、その情報頂戴できませんか。

メーリングリスト・ミニ情報 ③

末さん、足立さん。早速の情報提供有難う御座いました。

マレーシア領事館、経由でマレーシア貿易開発公社東京事務所(TEL03-3544-0712)を紹介され、英文の資料3ページをFAXで頂きました。この資料とご二人のメールも同封して郵送します。(メールが無いので)

誠に有難う御座いました。 会員の皆さんにもご面倒をお掛けいたしました。

酒匂 景輝 拝

(*) インターネットの双方向性、即効性、情報検索機能は目をみはるばかりです。上記メーリングリスト・ミニ情報 ①、②、③も僅か1日で相互支援が行われたほんの一例として紹介させていただきました。

今後、海外にロングステイするにしろ、移住するにしろ、あるいは国内でのんびり暮らすにしろ、充実した第2の人生を送るためにインターネットは必要欠くべからざる道具になるのではないのでしょうか。 — 編集部 —

チェンマイ日本語教師ボランティア(前編)

神奈川県在住 会員 No. 350 宮 博

1. 序

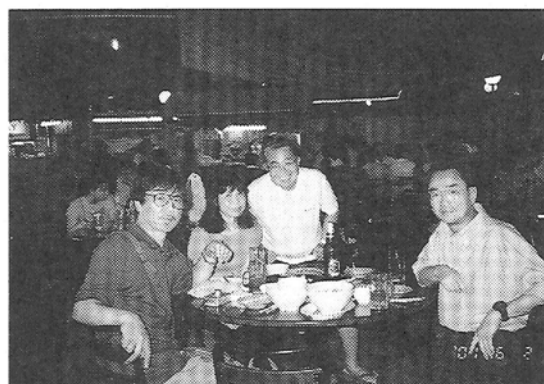
私は約3年前(1999.3月末)、50才でサラリーマンを早期退職した者です。その動機等については個人的にはいつでもお話したいと思っておりますが、今回は別の機会にゆずることとします。団塊の世代(S24生)として生まれ、サラリーマンとしていい時代を送れたと自分でも思っておりますし、早期退職をしたことについては自分として正しい選択だったと思っているところです。人の人生とはその時々々の選択ではないかと思うのですが、それにしてもタイで、中でもチェンマイでボランティアロングステイするとは考えてもみなかった訳で、今でも大変不思議な気がしてならないのです。

2. タイそしてチェンマイとの出会い

まず私のタイへの渡航歴ですが、約3年前(1998年9月)ツアーでのバンコク6日間は最初でした。在職中だったものですから、土、日を入れてなんとか6日間を絞り出した訳です。それに学生時代の親友がバンコクに二度目の赴任で働いていたこともありまして、一度行ってみようという気になった訳です。

その後早期退職を決め、日本語教師の資格を得た後、その専門学校がオーストラリアのゴールドコーストに出来るということで、2000年7月頃にアシスタントチャーターとして1年位行こうと考え、2000年4月に下見を兼ねた旅行をし、その時分校の校長先生にもご挨拶をしてきました。オーストラリアのゴールドコーストに行こうと決めていた訳です。

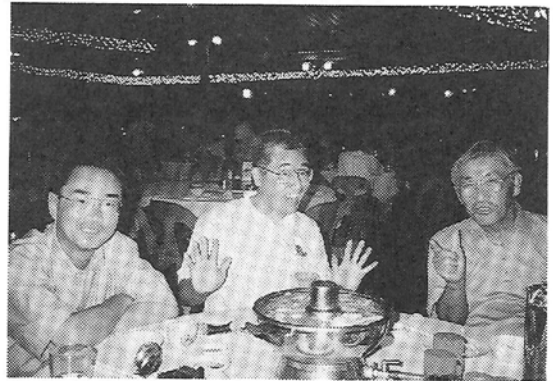
そうこう準備をしているうちに南の会で知り合いました竹中さんから「2000年6月1日発マレーシアのペナン島、ラサヤンホテル3泊付き14日間のチケットが手に入るけど行きませんか？」というお誘いがあり、一度マレーシアのペナン島やクアラルンプール(KL)にも行きたかったものですから、一緒にさせていただくことになりました。竹中氏は外見に似合わず(?)心配りのきく方で、年下の私としてはありがたいくらいの気の使い方、もっぱらビールは竹中さん、料理は私と、これまた理想の組み合わせのようで楽しいマレーシア旅行でした。ペナンでは竹中さんの紹介で島根からいらしていた加藤夫妻、KLでは末さんとこれまたいい人達と交流が出来、本当に楽しいマレーシア旅行となりました。(その節はお世話になりました) 竹中さんとマレーシアで一週間を過ごし、あと半分の一週間は竹中さんが東マレーシアのコタキナバル、私がタイへと別行動となり、KL空港での再開を約束し、しばしのお別れとなりました。



左より加藤夫妻、竹中氏、筆者

竹中さんから「タイに行ったらチェンマイにも行くといいよ」と現地ガイドまで紹介していただき、チェンマイも行くことに決めました。KLからバンコクに行き、友人宅で二泊させてもらい、次の日コンケンへ行きました。コンケンから約60Kmのところ以前会

報にも掲載された日本語教師の倉田さんがいらっしやいます。5月に倉田さんが帰国中、現在パースでロングステイ中の鈴木剛さんと二人で、長野県駒ヶ根にある倉田さんの家へ行きました。倉田さんは暖かく迎えてくださり、いろいろなタイ情報、日本語教育情報を教えてくださいました。それから一ヶ月後、二度とないチャンスと思い、コンケン空港に向かった訳でした。倉田さんが住んでいるタイ人宅に一泊し、楽しい一日を過ごすことができました。倉田さんは日本語教師としてすでに2～3年のベテランでありましたので、その意味でも有意義な一日でした。倉田さんが「日本から来たい、という人は結構いるんだけど本当に来たのは宮さんだけだね。行動力があるね」と言われました。



KLにて左より筆者、竹中氏、末氏

翌朝チェンマイへ向かうには、バンコクへ一度戻ってから乗り換えてチェンマイへ向かうため、朝食もそこそこに…というか、朝7:00頃倉田さん宅の近くで屋台の豆乳(ナム・タフ)と揚げパン(パートソー)を買ってもらい、その場でいただきました。倉田さん!その後豆乳と揚げパンは朝食として病みつきになってますよー。(いろいろお世話になりました)



左より筆者、倉田氏

前おきが長くなったようですが、この前おきなくしてチェンマイの話をするのは出来ません。今チェンマイで楽しく有意義に過ごせるのは、今まで書いた人々(竹中氏、加藤氏、末氏、倉田氏)の素晴らしいハートのお蔭であると思っているからです。その後チェンマイ2日間、プーケット2日間、バンコク経由でKLに戻る日程の中、KLで無事竹中さんと再会するに至りました。

3. チェンマイに決めた

さて2週間の旅も終わり、日本に戻りましたが、なぜかチェンマイで日本語教師をしたいと強く思うようになりました。チェンマイには子供の頃の風景、近代化されていない頃の東京の下町風情がそこいら中にある町。10円もあればお煎餅や水飴や甘いものが買える町。死んだ父親と手をつないで歩いたことなどが何故か思い出させる町。……私の文才ではこれ以上表現できませんが、何か日本の戦後20年代後半～30年代の風景が見受けられるのです。バンコクもペナン島も、もちろんプーケット島もそれらは世界の観光地であり、それぞれ個性ある楽園なのですが、ここチェンマイには何か心休まる「ふるさと」というか、昔の自分の家というか、なんか日本のどこかの昔行った田舎の町のような気がしてならないです。

長く住んでいると日を追うごとにチェンマイの人の顔は日本人によく似ていて、本当にどちらが日本人だか判らなくなっていくようです。北部ですから中国系の人の血が多いのではないかと思うのですが、それにしてもよく似ているのです。それも一つの大きな要素なのかも知れません。それから、チェンマイの魅力はやはり温暖な気候、安い物

価(バンコクの7割程度)があげられるでしょう。 よし、チェンマイに決めた!

そんな訳でチェンマイで日本語教師をしようと思った時、やはり問題は言葉となる訳です。タイの若い人、ガイド、お土産屋、タクシー運転手などの人達は仕事柄英語を少し話せますので、日常の意思の疎通は計れると思いますが、やはり郷に入っては郷に従えということで我々はタイ語の会話を少しでも学習し、ある程度の日常会話ができるようになることが何かの時に必要なことではないかと思うのです。 それとやはり教える以上自分もタイ語を学習し、教わる人の気持を身を持って体験することがどんなに役立つかなどと考えて、その後またチェンマイでタイ語の日常会話を個人レッスンで受けることになりました。 1時間 280B (1B=3円くらい)10時間、約2週間で最低の入門タイ語会話を勉強することになりました。 お蔭様で挨拶、買物、方向(乗り物など)など日常必要なタイ語を序々にではありますが出来るようになってきました。やはり外国語は多少の初期投資が必要ではないかと思えます。(平成13年7月下旬~8月上旬勉強する)

4. 日本語教師ボランティアが始まるぞ

日本語教師をどこでしたのか?ということですが、実は自分がタイ語を学んだその私立日本語学校(勿論日本人にタイ語も教えている)の校長先生とある日親しくなりまして、タイ語の勉強の終わり頃「実は日本語教師の資格を持っているのですがチェンマイでボランティアしたいと思っています。どこかご紹介いただけませんか?」と話すチャンスがありました。校長は女性ですが、「折角日本語教師の資格をお持ちなら、うちで少しなされたらどうですか?」という具合で10月以降2ヶ月間のボランティアという口約束をいただくことが出来ました。そして8月以降手紙、電話などで連絡した後、11月~12月の2ヶ月間ボランティア日本語教師をすることに決まったわけです。



どっちが日本人?(生徒達と)

実は私には大きな不安がありました。日本語教師の勉強をした期間が1999年10月~2000年3月。1年半前であり、その後勉強らしい勉強もせず過ごしていたものですから…。またその話が決まった後も日本に帰ってからは暑い夏が続き勉強意欲が湧いてこず、おまけにシアトルマリナーズの快進撃が続いていたので、そしてイチローが8月以降当たりだし、すっかりBS情熱メジャーリーグの虫となってしまう、どんどん復習から遠ざかってしまいました。家内も心配して「そんなことで教えられるの?」と痛い所をつきますので「うーん そうだな…」といった状況でした。そして「よし今回は大リーグを徹底的に見よう!そしてササキとイチローを応援しよう。日本語教師の方は理論面はやめて、実技の復習だけにしよう」と、腹を固めました。イチローがMVPをとれたのも、こんなファンが大勢いたからではないでしょうか?

そしていよいよ10月27日成田を出発し、バンコク経由チェンマイへ向かうこととなりました。

(追記)竹中さんの訃報(年末にご逝去)に接し、大変なショックを受けています。

心よりご冥福をお祈り致します。

(編集委員より) 後編は春季号に掲載致します。

ダバオからの変人便り

ダバオ在住 会員 NO.341 平野雅一

Eメールアドレス：masaMH3@aol.com

「ストップ・ヒア」私はタクシー運転手に叫んだ！～6月15日の私の日記より～

「ここで止めてくれ！」と、私はタクシーの運転手に叫んだ。深夜 11 時頃だったろうか、私はダバオ市の自宅でラム酒「タンドワイ」をいつものように飲んでいて、酒を切らしてしまった。いつもならば隣の小売店「サリサリ」で買うのだが、こんな時間では開いているはずもない。酒を手に入れるためには約3キロ離れたコンビニエンスストアに行くしかないが、こんな深夜に私1人で外出するほど凶太い神経を持ち合わせてもいない。少し飲みすぎた感があったが、1日の仕事を無事終えた充実感からか、その余韻に浸りたく、もう少し飲み続けたい。どうしよう……。フィリピン人ならば、「もう、酒がなくなったんだからしょうがない。明日又飲めばいいや。」となるのだが、欲深い日本人である私はそうならなかった。結局、酒を飲みたい気持ちが勝つ。大金（100P 札以上）を持っていくのはやめよう。財布の中から細かい金だけを全部持って自宅を後にする。

街灯が切れている真っ暗な道を表通りまで慎重に歩く。途中すれ違った男の目だけがギラギラ輝きこちらを見ている。あまりいい気持ちはしない。なんとか表通りまでたどり着き、タクシーを待つ。「人相の悪い運転手のタクシーに乗るのはやめておこう。」そう決めていたのだが、それどころではなかった。とにかくタクシーが来ない。痺れを切らした私は、親切な運転手にあたるようにと祈りつつ、最初にきたタクシーをとめる。運転手の顔を見た。やばい！ 愛想が全く無い強面だ。後部座席は危ないので、助手席に乗り込む。

「ダッシュボードに拳銃などの凶器が隠されているケースが多いので、助手席に乗れば私の足が邪魔をしてダッシュボードをあけることが出来ないので安全だ」と、日本人から聞いたことがあった。タクシーはコンビニに到着。こんな強面の運転手は嫌なので帰りは違うタクシーを拾いたかったのだが、また、拾うのに苦勞するのを避ける為、買い物が済むまでここで待つように運転手に言う。運転手は相変わらず無表情……。「なんだ、こいつは！」「OKと言う事も出来ないのか！」少し粋がってみて、精神的に落ち着く。ラム酒「タンドワイ」と「氷」と「スナック」を買い、待たせてあったタクシーにまた乗り込む。

自宅に向けて走り始めてすぐ嫌な予感がする。少しの金しか持ってこなかったことを思い出した。ポケットの中を確認すると22Pしかなかった。「しまった、買いすぎた」すぐにタクシーメーターを確認する。なんてことだ！メーターは27Pになっている。自宅に帰っても財布の中には100P札しかないのだから、それを出してもどうせおつりは返ってくるはずもない。その瞬間「ストップ・ヒア」と私は叫んでいた。私の大声に運転手は驚いた様子で急停車する。この人々は大声を出す習慣があまり無いので本当に驚いたのであろう。急停車し、その運転手はあきらかに驚いた視線を私に向けている。「さて、なんていわけをしようか。」悪いのは明らかに私である。しかし、私は上手い言い訳が出来るほどの英語力はない。素直に事実を伝えるしかなかった。有り金全部の22Pを運転手に見せて、「ごめん。これしかお金が無いので、ここで降りるしかない。」そう伝える。どのような返事が運転手から返ってくるか私は息を飲んで待つ。すると、今まで無表情だったその

運転手の顔が笑顔に変わった。「OK。OK。」いったい何が OK なんだ？ 5P サービスしてここで降りしてくれるというのか？すると、運転手は続けてこう言った。「22Pでお前の家まで行ってやるよ」こんな親切な運転手に対して、私はなんという失礼な判断をしてしまったのであろうか。自分が恥ずかしかった。自宅近くでタクシーを降りる際、買ったスナックを渡そうとしたが運転手は受け取らなかった。

*この事例はほんの1つに過ぎず、このようなことをここダバオではよく経験します。当然その逆のケースも多少はありますが……。ここダバオは人々のやさしさやおおらかさに感動する日々が続くとともに、人間として何が大切なのかを考えさせられます。

「家族に理解されていないまま日本人ボランティア教師がダバオにやってきた」

～9月18日の私の日記より～

「アイヨー（ごめんください）、アイヨー（ごめんください）」夜8時頃、ダバオ市自宅の門で誰かが私を呼んでいる。すぐ近くに住むゴキブリの嫌いな若い日本人女性が、ゴキブリ退治の依頼によく来る時のパターンである。私は夕食中ということもあり、ゴキブリ退治の為に外に出て行くことを少しためらっていた。すると、「アイヨー、アイヨー」その呼ぶ声は、すぐに大きな叫び声に変わっていった。どうもゴキブリ退治の依頼ではなさそうだ。玄関の扉を開け、門の外に立っている女性を見るといつもの日本人女性ではなかった。そこに立っていたのは近くに住む61歳の日本人ボランティア教師の世話人フィリピン女性であった。その女性はビサヤ語で何か私に訴えている。私はそのビサヤ語を理解できなかったが、その緊迫した表情からただ事でないことはすぐに理解できた。「ボランティア教師の身に何か起きたのだ」と……。私は上半身裸のまま、そのボランティア教師の家まで走った。その家に到着しベットルームに目を向けると、床に倒れているボランティア教師の姿があった。私の後では世話人のフィリピン人女性が震えながら泣きじゃくっている。どうしよう……。冷静さを失いかける自分と冷静でいなければという自分の戦いが始まった。

8月25日。そのボランティア教師は様々な思いを胸にダバオに降り立った。その男性は「日本とフィリピンとの掛け橋になろう」と、ダバオでリコーダー指導や日本語教師のボランティアをしていたが、志半ばで日本に帰国してしまった過去をもっていた。日本へ帰国後、その男性は中途半端な状態でギブアップしてしまった自分を責め続けていたそうである。自分を責め続けていた最中、7月初めのNHKの画面に以前自分が日本語を教えていたフィリピン人がボランティア活動をしている姿を目の当たりにしてしまった。。そのことで、その男性はいてもたってもいられずに、家族の同意も得られないままダバオに飛んできてしまった。一方、その男性が前回ダバオに来た際に撮った写真が、家族に問題を起こしてしまったようだった。私もその写真を全て見せてもらった。フィリピン女性特有の屈託の無い笑顔に囲まれて、その男性は幸せに満ちている顔をして写っている。家族の立場にたって考えると、確かに勘違いされてもしょうがない位の充実した顔をしている。その男性は私に「この写真を見て女房が怒ってねエ。今回ダバオに来た件は（どうせ若い女の尻を追っかけに行くのだろうと）大反対しているんだろうナ。」と話していた。私はその話を聞いて「私が60歳を過ぎても女房は嫉妬してくれるのかな？」などと考えると、その男性を羨ましく思った。ちなみに、その写真に写っている女性たちは全て日本語を習っている生徒たちであり、その男性の家族の思い違いであることは真実である。

私は、途中でギブアップしてしまった自分の過去にリベンジしようとしているその男性の生き様を尊敬していました。一方、家族に真実が伝わっていないことに苛立ってしまいました。ある晩その男性と話をしている中で思いついたことは「よし、その男性の家族をダバオによんで、頑張っているご主人の姿を見てもらおう」ということでした。そんなことを計画していた時のことである。その男性は突然倒れてしまった。

ベットの横に倒れているその男性は目を開いている。「大丈夫ですか?」「着替えようとしたら倒れてしまった」その男性から返答があった。返答があったことに、一安心。しかし、その男性の左半身が動かない。私は医者ではないので良くわからないが、その状況からして、頭の内部に何かしら支障が起こっていると思った。直に救急車を手配するとともに、近状の人に車を出してくれるようお願いする。その時、たまたま近所に住む医者が駆けつけてくれた。応急処置が始まる。私は専門家が近所に居てくれたことに一安心。直に救急車一台が到着した。また、その直後もう一台の救急車が到着した。「この国の救急車はあてにならなかったんじゃないのか?」救急車が早くきてくれたことはよい誤算だった。私は、救急隊員と応急処置をしてくれた近所の医者とが引継ぎをしている光景を見て、また少し気が楽になった。が、それもつかの間。昨年、ダバオ日系人会の会長が倒れて病院にいったが、その際金を持ち合わせていなく、診療してもらえなかったことで亡くなった。」という話を思い出した。私は直に財布を取りに自宅へ走る。どれくらい診察代がかかるのか見当もつかないので、職場の責任者へ金庫から金を持ってくるように走りながら携帯電話で指示をする。「志高くダバオに乗り込んできたのに、家族に理解してもらえないままの状況で、お金を持っていなかったことで診療してもらえず亡くなってしまったら・・・。」そう思うと不安だった。その男性の自宅に戻った私は、その男性の荷物をあさり、金を探す。その男性が救急車に運ばれたので、貴重品が入っていそうなバックを持って私も救急車に乗り込む。

病院に到着してフィリピンスタイルを目のあたりにする。応急処置・薬の投与・レントゲン・CT スキャン…その行為ごとの手前で必ず支払いが発生し、支払わないとその流れが止まる。私はそのシステムに苛立っていたが、それに従うしかなかった。「金を持ってきてよかった」正直な感想である。一方、その男性の診察中、深夜にも拘らずどこから聞きつけたのか関係者が続々その病院に駆けつけて来た。日系人会会長・副校長・大家・近所の人・ボランティア協会のスタッフ……。その男性の志は高かったが、実務に移行して間もないためなんの実績も残せていない状況であるにも拘らず、多くの人たちが駆けつけてきてくれた。そのやさしさに感激した。こんなやさしさを持ち合わせているフィリピン人なのに、病院のシステムはそのやさしさを踏みにじるシステムだと思えばなんともやりきれない気持ちである。私のフィリピン生活はまだ短いので理解できていないのは当然である。ただ、あるフィリピン人が私に言った。「あのような状態になったら、お金かけてまで治療しないよ。治っても半身不随なので、家族や周りの人々に迷惑かけるだから……。」取り敢えず、この国のシステムに対して良し悪しの結論はもう少しの間つけずにいよう。

「全校生徒に見守られて天国に行ったボランティア教師」

～9月20日の私の日記より～

早朝、携帯電話のなる音で起こされた。「今、〇〇さんが亡くなっちゃいました。」日本フィリピンボランティア協会スタッフの相棒が沈んだ声で連絡してきた。私はすぐタクシ

一で病院へ。私は入院中 24 時間体制で付き添ってくれていた日本フィリピンボランティア協会のフィリピン人スタッフにねぎらいの言葉をかけるのが精一杯で、控え室のいすにへたりこむ。「家族に看取られずに死んでしまった。」

早速相棒はその後の手配に疾走する。ただ、どこで（フィリピンか日本か）火葬するかによって今後の流れは決まる。その判断はその男性の家族にしか出来ない。もしものことを想定してスタッフが葬儀方法などの下調べはしておいたので、その後の流れはある程度頭に描けていた。その点では落ち着いてはいたのだが、何か虚しい。ダバオで火葬するという家族の意思を聞き、その流れで様々な手配が急ピッチで進む。日本ボランティア協会の会長（お坊さん）が日本からわざわざ来て葬儀を仕切ってくれると聞き、現地スタッフは安心していただけのも事実ではあるが、何か足りない。その男性の家族もダバオまで来ることとなり安心したのだが、何か虚しい。ダバオの地まで来れたのだからその男性はある程度幸せだったと自分自身に言い聞かせたいのだが、納得できない。この自分のもやもやした気持ちは何なんだろう？

会長と遺族の来比の日程や葬儀の準備も整った頃、故人がボランティアとして日本語を教えていた学校の PTA の副会長から献花の申し出があった。「短い期間ではあったが、日本からわざわざダバオまでボランティアとして来た方に敬意を感じる。本当は学校で葬儀が出来ればよいのだが、この程度のことしかできない。」このように言われ、私は今までの虚しさが何かをはっきりと自覚できた。「そうだ、故人が担当したクラスの生徒に葬儀に参加してもらおう」そうすれば、故人も喜んでくれるだろうし、遺族も父親の功績に気付いてくれるのではないか。そして、遺族が気付いてくれたことに故人が一番喜ぶのではないか。そう直感した。

そう直感した私は、すぐに故人が教えていたダバオ日系人会の学校の責任者へ相談しに行った。「子供たちには大切な授業があるとは思いますが、（故人が）担当したクラスの生徒だけでも葬儀に参列してもらえないだろうか？」私は学校の責任者へ、その男性が自分自身に対してリベンジしにダバオに来た経緯や家族に理解されていない状況を説明した。急な事なので了承してもらえるか否か不安であった。そして、私はその責任者の返答に驚いた。

「葬儀が終わった後、ここで（学校で）セレモニーをやりましょう。全校生徒・全職員を参列させて・・・」私の想像をはるかに越えた返答が返ってきた。私は嬉しかった。とにかく嬉しかった。これぞフィリピン！「これで、その男性は天国にいける。」そう思うと自然に涙があふれてきた。

9月18日。遺族である娘さんと日本フィリピンボランティア協会会長がダバオに到着。娘さんの視線がきになる。その視線は、父親を失ったというだけのものではない。「父親が若い女の子の尻を追っかけていってしまったようなフィリピンなんて嫌い」「そこにいるあなたたちなんて信用できない」「こんなきっかけをつくった日本フィリピンボランティア協会なんて信用できない」私はその男性から生前に話を聞いていたのである程度は想像していたが、目の当たりにするとやはりつらい。父親がなくなった理由を私たちに責任転化しても構わないが、「あなたのお父さんは素晴らしい事をしたんだよ。」ということを知って欲しい・・・。

9月19日。葬儀後、約800人の生徒や先生、関係者が参列し、学校にてセレモニーが行われる。幼稚園からハイスクールまでの児童生徒全員が献花をする。その花を1本1本娘さんが受け取る。そのセレモニーが進行するにつれて娘さんの表情が不信感から戸惑い、

そして感激に変わっていった。そして、セレモニー最後の娘さんの挨拶。「父はこのフィリピンダバオの地で亡くなり、本当に幸せでした。」

私はその言葉を聞き故人は救われたと思った。「これで、故人は天国にいける」と・・・。

「皆さんお元気ですか」

私は2001年5月28日ダバオに降り立ちました。17年間の日本での企業人生活にピリオドを打ち、NGO活動に転身しました。志高くもてる生き方の出来る自分自身に喜びを感じてはいたものの、一方で未知の場所で生活・仕事出来るのか否かという現実的観点に立ってみると、清水の舞台から飛び降りるきもちであったのは本音です。私はまだ若輩者(39歳)ですので経済的な問題もあります。子供もまだ小さいので教育・養育の問題やNGO活動の進め方に対しても未経験でした。ある程度の理論構築はしていたのですが、経験がありませんでしたので、とにかく全てが白紙からのスタートでした。ダバオに来てまだ7ヶ月ではありますが、志を高く持って懸命に生きれば何とか成るとというのが、今のところの実感です。当会の会員の方々は私と状況に大きな違いがあります。経済的裏付けがある点、子供への教育責任は終了している点、日本への社会貢献は十分なさった点、永住やロングステイに失敗しても日本に帰る家がある点、等々・・・。ご両親の介護などの問題を抱えている方もいらっしゃると思いますが、南国暮らしを実現させることは私と比べればそんなに難しいことではないと思います。私の家内の両親は今世界1周の旅に出ています。豪華な旅行ではなく自家用車での貧乏旅です。もう2年半以上も日本へ帰ってきません。父は69歳・母は63歳です。私はその両親を尊敬しています。こんな無謀な旅に出た勇気のみならず、一度しかない人生を一生懸命に生きている姿に感動しています。昨年秋から関西支部の長内さんご夫婦が私の近所でロングステイを始めています。長内さんといつも次のような話をしています。

「南国暮らしの会が、南国暮らしを夢見る会ではなく、南国暮らしを自分の手にする会であってほしいね」と・・・。皆さん、

私たちに感動を与えてくれるダバオでお待ちしております。

*日本フィリピンボランティア協会ではダバオでロングステイを希望しているビギナー向けの住居をご用意することとなりました。24時間体制ガードマン・日本語の話せるスタッフ常駐・英会話教師派遣・生きがいのきっかけづくり等ソフト面を重視しています。現在運営している研修宿泊施設を改装いたしますので、希望受付後1ヶ月で入居できます。できれば、日本フィリピンボランティア協会の活動に賛同していただける方にご入居いただきたいと思っております。



長内さんと筆者(日比B協会クリスマスパーティにて)

マルタ島でのホームステイ 3ヶ月

福岡県在住 会員 No.128 稲延 豁

マルタ島より帰国して二週間が経ちました。しかし今でも夢を見て「しまった！学校に遅れる」と、飛び起きてしまう。「そうか、ここは恋しき我が家だったか……」と苦笑いします。

ああ懐かしき恋人、フレンド達。

マルタという島をご存知ですか？あの有名なゴッドファーザーを生んだイタリアのシチリア島より更に南に下った小さな島、それが「マルタ共和国」です。地中海のほぼ中央に位置し、淡路島のほぼ三分の二程度の面積に三十数万の人々が住んでいます。イギリス人の統治が長かったため公用語は英語ですが、一部の古い土着の人はマルタ語を使います。信仰心の強い島で、ローマカトリックの信者が80%を占め、石を投げれば教会に当たるほど、歴史上多くの教会が建てられてきました。朝な夕な響き渡る教会の鐘の音によって異邦人である私の胸がどんなに慰められたことでしょうか。

気候は典型的な地中海性気候で、五月から十月の平均気温が23℃、十一月から四月までは14℃と、概ね過ごし易いと言っても過言ではないでしょう。

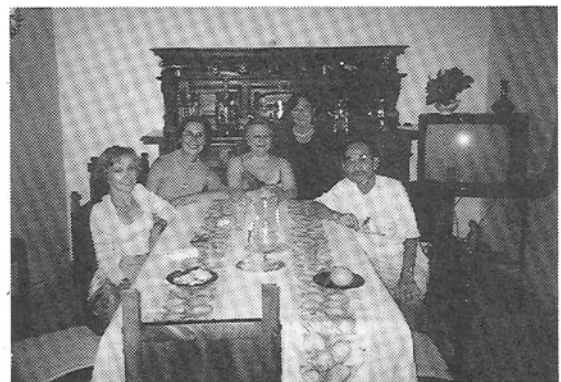
通貨はマルタリラとセント。1リラが約300円ですが、現地では1ポンドと称します。生鮮食料品は日本と比較してとても安価です。特に主食であるパンの種類の豊富さと、その安さには只驚きの一語です。

日本との時差はマイナス八時間。マルタの名称はフェニキア語でMALETで、「安全な場所」という意味だそうです。

島全体は丘陵状台地で、山や川こそ無いが、海岸線は深い入り江と美しいビーチで構成され、季節になるとヨーロッパの観光客が多勢押しかけるのもむべなしとすべきでしょう。地勢の華やかさだけではありません。紀元前二千年から四千年の歴史的遺産。地中海文明の黎明期の巨石神殿。城塞都市。城の廃墟と、その遺跡。それらが島全体を覆っているのです。特に考古学に興味のある方にとっては垂涎の的といえるでしょう。交通手段はバスがお勧めです。本数も多く、値段も安く、実に便利です。私自身も暇にまかせ島の隅々まで訪ね歩きました。

二年前私が七十歳に達したとき、企業戦士一本槍の弟が亡くなり、その心痛もあって外国に翔んだのがニュージーランドのクライストチャーチでした。英語もろくに分からぬ状態でのステイでしたが、三ヶ月をどうにか終了することができました。

マルタ島に出会ったのは本屋で立ち読みした留学雑誌でした。早速メモして帰り、大阪の学生援護会に電話して詳細を調べました。色々迷った末、死ぬ前に後悔しないように



寮仲間と寮の食堂にて

…それで思い切って決めました。

福岡空港からマレーシアのクアラルンプール、そしてスイスのチューリッヒを経て最終目的地であるマルタ島に向かいました。

マルタ島の税関検査で何故かつかまってしまいました。学生生活をするということがどうしても信じてもらえない。一人で来たこと、高年齢、顎鬚、それらが一体となり、不信感を醸し出したようです。遅れてやって来た運転手が掛け合ったらしく、長時間の末、やっと開放してもらいました。外にでると激しい暑さが顔を射る！ フィリピンの直射日光に似ているなあと思いました。

マルタ島では、Institute Of English Language studies (IELS)という学校(というより雑居ビルのオフィスといった感じ)に通いました。チュニジア人、チェコスロバキヤ人、トルッキー(トルコ人)、フレンチ、ブラジリアン、イタリアン、そして生まれて初めて聴く小国のヨーロッパ人など、多くの学友に交わり、助けられ、胸に深い刻印を残した三ヶ月でした。

ステイした家は無愛想で不親切な婆さんの経営する下宿寮で、「スモーキング」と言ったら二人部屋から出されて一人部屋に入れられてしまった。殺風景だが、流し台は備わっていました。机と椅子が無かったので催促したら、マージャン台のような真四角の机と半分壊れかけたような椅子をあてがわれました。

マルタ島のハイライトは大海の日の出、月の出です。海上のシーラインからのサンライズ。つまり、神秘、荘厳、雄大の海上を血の海に染める珠玉編、太陽のアップです。また、同じエリアの海上から夕方月の出を観る。九月の末日の夕方、月の昇る光景とリアルに直面した時、たまたまカメラの不所持で、返す返すも残念極まりないことでした。

マルタの太陽と、素晴らしい遺跡であるタルシーン神殿を詩に詠んでみました。ご覧頂ければ幸いです。

○マルタの太陽

暁雲が茜色に染まり

静寂の一千万ヘクタールの

彼方から

神秘の光彩を

一千万のシーラインから

ノックも無しに

創世記の深紅の袈裟架けを纏い

この世の丸を血丹に

凝結させて

運命の扉を

兆天に向うべく

磁性が呼んだ

宇宙の旅へ

スタートする

○タルシーン神殿

訪れる人 蔭なき 昼下り

漂白の旅人は

千古の巖柵

万古の巖積み

億古の巖列

兆古の掘穴に

ひたすら

幽邃と、森厳と、恐懼と、信仰と

身魂と、信憑と、審美と

神秘と、威光と威嚴の渦と

静謐の中に、埋没した



タルシーン神殿

南の会・伝言・掲示板

§ 表紙のことば

会員 No.24 酒匂 愛子

今回は新年号ですので日本の桜島岳（東洋のナポリと言われている。）を描かせて頂きました。この桜島は夫の故郷です。

錦江湾に雄大な姿をあらわし常に噴煙をたなびかせている景色は、天下一という表現がピッタリの絶景です。

私の未熟な筆では描き尽くせない素晴らしい眺めなので、皆さん方も是非一度天気の良い日に、鹿児島市の城山に登りこの景色を心に刻んで下さい。もしその時噴火が見られたらその方は果報者です。

皆様良いお年を御迎えてください。

§ ペナン滞在希望者への情報

提供者：酒匂 景輝

現在マレーシア・ペナン島に滞在中の会員木村氏、加藤氏はロングステイのため、ペナンを留守になることが多く、会員の方々が訪問されても面倒を見られないのが現状です。

このたび木村氏、加藤氏、末氏3者にペナン在住（10数年）の石原様を紹介して頂きました。先日高澤氏、酒匂の3者で面談し、ペナン島での案内などサービスをして頂くことになりました。

但しサービスは**有償**です。（サービス料金は南の会の外国在住者に対する謝礼の目安程度です。）

◇具体的な例でペナン滞在に適したコンドミニウム（マリーナ ベイ コンドミニウム [ペナンの海辺の高級コンドミニウム]

[価格と部屋面積] 月レート 週レート 日レート 《参考交換レート》
Aタイプ（102㎡、3ベッドルーム） RM2,300 RM630 RM110 《1RM=30円前後》

★上記は2001年度価格で2002年1月から月レートでRM200アップになります。

☆お申込先：トロピカル リゾート ライフスタイル株式会社

住所：3rd Floor, Unit 13, Axis Complex, 35 Jalan Cantonment Road, 10350 Penang.

TEL/FAX：604-228-6540 Eメールアドレス：tpcl@tm.net.my

現在松井と言う日本人女性に対応します。

§ タイ国 ホテル情報

提供者：事務局 宮崎 哲郎

2001年秋季号の会報（P49参照下さい）にて紹介されたバンコクの PRINCE HOTEL THAILAND に12月初め宿泊し、南の会会員の利用について経営者の川満 富子氏（バンコク日本人会前事務局長、本ホテルのオーナー夫人で共同経営者）とお話し合いをし、会員宿泊の際、特別便宜を図って頂くことに致しました。

ご提供頂けるサービスは、

1.)宿泊ルームは、2ダブルベッドルーム
(料金は会報記載通り)
広さは充分でバスルームは改装済みであった。
2.)NHK 衛星放送視聴可(他の部屋には無い)
3.)日本人用にできるだけ照明は明るくする
4.)朝食は会員用におかゆ定食(中華風)を特別献立とする。料金 110 バーツ(約 310 円)。勿論洋食もあります。
5.)宿泊中は出来るだけ川満様がお会いし、便宜を図る。また、緊急時や困った時には何時でもサポートする。

連絡用携帯電話番号：01-611-3394
にてコンタクト可。

バンコクは初めてとか、知人がいない場合にはこういうサービスが最も有り難く他に代えがたいポイントで、言葉の通じにくいタイ語の世界では大きなメリットです。

今後、会員の方の利用が増えれば設備的にも改善が望め、より快適なサービスが受けられると思います。

なお、予約に際しては南の会会員である旨明記して、川満様にファックス(日本語)をお願いすれば良いと思います。

F A X : 662-251-3318

バンコク空港からはマッカサン(地名)のプリンスホテルと言えば大体分かります。

初めてタイを訪れた方は、少し高いですが空港のリムジン(500 バーツ ; 約 1,500 円)をお勧めします。親切で間違いがありません。



プリンスホテル全景



ホテルのプール



地図

§ メーリングリスト管理人より

No. 101 高澤 弘晃

メーリングリスト管理人の高澤です。おめでとうございます。日ごろメーリングリストをご利用いただきありがとうございます。

先日のご挨拶でも申し上げましたが、現在 100 名以上の方に登録、利用いただいております。この機会に事務局より皆様のメールアドレスを公開していただき、メールアドレス帖を作成する事になりました。更に、ここの所大勢の方に利用いただいておりますがメーリング登録者の把握が遅れている状態です。

つきましては、皆様のメールアドレスの確認を取らせていただきますので回答をお願い

いたします。

<依頼事項>

1. 会員番号（会友の方は「会友」を記載）

氏名

メールアドレス

住所

意見

fwjc5962@mb.infoweb.ne.jp 左をクリック後、上記内容を記入返信ください。

2. 尚、メーリングリストの登録はいいが、アドレス帖の公開は困るという方は、
アドレス fwjc5962@mb.infoweb.ne.jp をクリックして
上記会員番号、氏名、住所、意見、「掲載不可」をはっきり記入願います。
3. 複数のメールを登録されている方は、複数のアドレスを記入願います。
4. 参考までに メーリング登録者の条件は会員、会友の方に限ります。
5. 皆様のできるだけの早い回答を（15日ごろまで）お願いいたします、1月以内に回答なき場合はメーリングリストを利用されていないと判断しメーリングリストから除かせていただきますのでご了承ください。
復活希望の場合、上記回答をいただければ再度登録いたします。

§ウソのような本当の話

ペナンで事業をしている方が店舗を新築した。そこで多くの人々を招き盛大な落成式を催した。ところが式の最中に雨が降り出し、雨漏りが酷いため招待客の中に工事業者のボスも居たので、嚴重注意したところ、その業者は「これは新築だから雨漏りするのは当然である」と平然としていた。日本人からみると何たる事、問題になるところだが、そこはマレーシア、これが常識らしい。

“この国では新築の物件は購入しない方がいいとの言葉がある。”

会員の K 氏もペナンの新築マンションに居住して、バスルーム天井（上階床）の防水が不完全で水漏れが発生し数個所に水受けボールを置いている始末、業者に苦情を申し立てているが中々らちがあかない。

2002年に渡馬するまでには何とか手直しするように約束はしてきたが、顛末は如何???

酒匂 景輝 記

§タイでは今でも子供さらいがある

この話は12月8日の南の会のサロンで会員No.88の戸高さんから発言があった。

このたび戸高さんの娘さん一家（夫君はタイ人でタイに永住するものと思っていた）4名がタイ国バンコクから引き揚げてくる。

その理由が何と子供さらいとの事。

タイでは今でも可愛い、育ちの良さそうな子供をさらい、金品などの目的ではなく、さらった子供を身体障害者に仕立て上げ、物乞いなどに従事させる組織がある。

過日家族でデパートへ出掛けた折チョットのことで迷子になり探す数時間、生きた心地がしなかった。

この時は店員が保護してくれていたもので、事なきを得た。これに懲りて、子供が中学を卒業するまで日本で教育させようと言う事で、千葉県に住む事に決めた。

我々高齢者には余り関係無さそうな事柄であるが、これも治安の良いと言われるタイ国の現実で、近年バンコク市内では金持ち面した外国人のトラブルは日常茶飯事である。高齢者といえども決して安全では無い、余り派手な格好は慎んで行動したほうがいい。

酒匂 景輝 記

§ 図書案内

*** 年金額 21 万円の海外 2 人暮らしⅡ (オーストラリア・ポルトガル・チェンマイ)**

著者：立道 和子氏、発行者：(株)文春ネスコ、発行日：2001 年 12 月 4 日、定価：1500 円
オビ：「今がいちばん幸せ」とリタイア後に言える暖かくて、安くて、楽しく暮らせる 3 カ国。住居・食・医療等データ満載。★立道 和子さんは南国暮らしの会の会員(No. 435)です。

*** 海外リタイア生活術**

著者：戸田 智弘氏、発行者：平凡社、発行日：2001 年 11 月 19 日、定価：740 円
オビ：スポーツで楽しむ、語学を学ぶ…。「日本でできない」暮らし方があります。家探しから医療、治安のことまで、快適で安全な海外生活マニュアル。★戸田 智弘氏は南国暮らしの会の会員(No. 33)です。

*** チェンマイの田舎暮らし**

著者：高橋 高志氏、発行者：マガジンハウス、発行日：2000 年 8 月 24 日、定価：1400 円
オビ：人生復路の最適地、チェンマイで年金生活を生き生きと楽しむ。持病と体質から寒い場所は自分に合っていないことは分かっていました。また、極端に食文化の違う国、日本から遠い国も無意識のうちに候補地から外してしまいました。最後に巡り合えたのが、ここチェンマイだったのです。(「チェンマイの空の下から」より)

*** 年金でもできる海外ふたり暮らし (オーストラリア パース編)**

著者：中村 聡樹氏、発行者：中央公論新社、発行日：2001 年 9 月 25 日、定価：1,500 円
オビ：新しい生き方を考えてみませんか。「世界で一番美しい街」パースで夢を実現。

*** 極楽オーストラリアの暮らし方**

著者：柳沢 有紀夫氏、発行者：山と溪谷社、発行日：2001 年 8 月 15 日、定価：1,500 円
オビ：この本を読むともれなくオーストラリアに住みたくなります。プツと吹き出したり、フムフムと感心したり。陽気な国の魅力を知ったからには、もういても立ってもいられない。定住・ロングステイのための詳細データ全掲載。

* 1日5000円ぜいたく旅 ハワイ

著者：井伊 和泉氏、 発行者：双葉文庫、 発行日：2001年10月20日、 定価：552円
オビ：高級ホテルに格安料金で泊まる方法から、お盆や年末年始などのピークシーズンでも難なく航空券の予約をとることが出来るテクニックまで、ハイリピーターも思わずうなる裏ワザがぎっしり。 会報担当(足立) 記

訃報

当会会員の竹中 隆成様(会員 No.290)が、昨年12月27日永眠されました。在りし日の竹中様のお姿とご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

竹中様の奥さま勝子様より会員の皆様に対し、以下のメールが寄せられましたのでご紹介いたします。(※一部編集させて頂きました——編集部)

私は、南の会の竹中隆成の妻睦子です。また松もとれないのに悲しいお知らせで申し訳御座いません。昨年6月、竹中は私とタイへ旅行中に具合が悪くなりまして急いで帰国、6月30日緊急入院いたしました。その後入退院を繰り返しましたが、隣癌の為に12月27日悲しくも帰らぬ人となってしまいました。

南の国が好きで皆様方とお知り合いになれて仲良くしていただき、どんなにか楽しくすごしたことでしょう。本人に成り代わりまして感謝と御礼を申し上げます。

まだまだあちらの国、こちらの国へと飛んで行きたかろうと、竹中のパスポート、国際運転免許証、ダイビングノート、英会話辞典などをいっしょに入れて四谷の東長寺にて同月29日日本人の希望どうり家族葬をとりおこないました。

竹中は「あーあ、あいつはもういないのかーと、風の便りに聞いてくれるのがいちばんだよなー。できれば、うらみつらみのひとつやふたつ、送る言葉のひとつやふたつ、供えて貰えたら最高だねー。」などと常々申しておりました。

そこで皆様をお願いします。どうか竹中のために送る言葉を頂けたら幸いと存じます。メールして頂きましたら、四十九日にお供えさせて頂きたいと思えます。(メールアドレスは BQD05310@nifty.ne.jp です—編集部—)

竹中はそれがなによりの供養と申しておりまして、ご香典ご供花等は固くご遠慮させて頂きたいと存じます。

また、もしもお時間やご都合がおつきになって、竹中を送ってやりたいと思って下さる方をお願いします。お葬式は家族葬で済ませましたが、大学時代のお友達が賑やかな事が好きだった竹中のために「送る会」を開いてくださる事になりました。

お友達が発起人となりすべて取り仕切ってくださいますが、竹中と親交の深かった人達の名簿をお渡しするように言われまして、今あわてて南の会の皆様、テニスのお友達、英会話のお友達と連絡させて頂いているところです。

もし、有り難くも出席して下さる方は誠に恐れ入りますが、わたくし宛お返事を頂きたいと存じます。後日発起人の方からあらためてご連絡を差し上げる事になっております。わたくしの電話番号は 048-863-4347 (ファクシミリも同じ) です。メールでの連絡で結構ですが、入りましたら直ぐにお返事を入れさせて頂きます(届かないといけませんので)。では、よろしく願いいたします。

送る会 2月2日(土曜日)
場所 東京プリンスホテル
時間 14時から
会費 10,000円(誠に恐縮ですが、大いに飲み、大いに食べ、大いに竹中の悪口でも言ってください)

南の会のみなさまへ

1月4日

竹中睦子

支部・部会伝達板

§九州支部より

九州支部長 竹村 毅俊

「南の会」のみなさん、明けましておめでとうございます。

今年も、また一緒に楽しい旅をしましょう。

九州支部は、昨年は恒例のフィリピン旅行をテロの影響で行けませんでした。メンバーの皆さんは旅のベテランばかりなので、それぞれ、いろんな方面への旅を楽しんでいます。中でも福岡の稲延さんは72歳という高齢にもかかわらず、エネルギーに溢れ世界を股に掛け、旅と英語の勉強を楽しんでいらっしやいます。

昨年はニュージーランド、今年はマルタ島といずれも3ヶ月間のホームステイをしながらの英語の勉強と観光を楽しんでこられました。その元気さには我々はただ脱帽あるのみです。詳細については、その旅行記を本号から数回にわたって連載される予定ですので、是非、ご愛読ください。

なお、九州支部としてはメンバー数名で、最近の激安航空券を利用してハワイ6日間の旅行を楽しむ予定です。次回の九州支部だよりもでも報告したいと思います。

§関西支部より

関西支部長 大橋 績

2月に会合を予定していますが、詳細は未定です。

§関東支部より

関東支部長 宮崎 哲郎

昨年の秋季号にてご案内しましたサロン「南の会」は第1回11月10日(土)にスタートしました。当日はセブの鈴木さん、大阪より中西さんが特別においでになり総勢約15名程の盛況でした。

オーストラリア・パースへ出発前の鈴木 剛さん、奥川さんを囲んでの話、セブの話、それぞれのテーブルで懇談、あっという間の4時間でした。終了後は2次会を有志で行い、大いに盛り上がり散会。皆さん満足してお帰りになりました。

第2回は12月8日(土)、チェンマイの水間さんが特別出席をされたのが良かったのか、立道さん他ベテラン女性陣4名の御出席を賜り、花(?)が咲いたようなサロンとなりました。新潟からはわざわざ山口さんが出席されたり、筑波の山からジミー伊藤さんなど遠くから仲間が参加され、例の如く水間さんのチェンマイ話に爆笑の連続でした。いつ聞いてもこの方のお話は面白い。

この日、入会前の調査に来られた山田さんもこの雰囲気にも飲まれ思わず入会申し込みサイン、皆さんに歓迎されたうえ2次会にも参加、あっという間に「南の会」の人となりました。懇親会は引き続き女性陣全員参加、賑やかな楽しい会となりました。今回参加者は約12名でした。

このサロンについて再度ご案内します。

- (1) サロンの設置場所:新高輪プリンスホテル(品川) JAL グローバルクラブラウンジ(場所等の案内: TEL 03-3422-1111)
- (2) 設置時間:毎月第2土曜日の午後1時~5時までオープン。
- (3) 費用:300円(飲み物)

これはテスト的に進めていますが、今年も引き続き行いますので是非ご参加下さい、お待ちしております。
参加される方は前日までに管理責任者(事務局:宮崎)までご連絡下さい。

TEL&FAX : 03-3472-9954 又は 携帯 : 090-2907-8340 までお願いします。

又サロンと同時に特別行事(ミニ情報交換会)を開催する場合には南国Eメールの「メーリングリスト」に掲示いたしますのでご留意下さい。

なお、2月のサロンは事務局の都合により開催いたしませんので、予めお知らせいたします。
3月からはお知らせ通りの日時で行いますので、よろしく願いいたします。

§ 会員担当より

担当理事 酒匂 景輝

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中はいろいろお世話になりました。
今年も宜しく願いいたします。

1、平成14年度会員継続申込について

新年号は年度替りの継続会員の募集時期になりました。今年度から会費が5千円になりました。今回は別添郵便振替用紙に会費¥5,000を印刷し間違いの起きないように致しました。

南の会の14年度は4月1日からです。本会は年度会費制で、途中入会者に対して月割り計算は致しません。

よって13年度途中入会者も会員として継続される場合は14年度会費を拠出して下さい。

会費納入期日:平成14年2月末日まで

御願ひ : 郵便振替用紙の必ず通信欄に会員No.をご記入ください。

2、平成13年度会員数

会員数:342名 (平成13年12月25日現在) 但し4名退会で実質338名です。

内訳;個人会員:340名、(継続会員:235名、新規入会者:105名)

賛助会員:2社、(個人会員からの切り替え:1名、新規入会者:1社)

尚追加名簿を添付しますので会員名簿に追加してご利用ください。

§ 規定集編集委員会より

委員会責任者 酒匂 景輝

東京都に申請中でした定款改定案が平成13年10月19日付けにて認証されました。よって今回別添にて、定款と細則(平成13年12月16日付け、総会及び理事会にて定款と整合性のある細則に一部変更)を皆様のお手元に届ける運びとなりました。本規定は過日お届けしました「南の会必携」に綴じ込んでご利用ください。

§ 事務局総務担当から

担当理事:宮崎哲郎/菊地 功

1. 理事会を9/29, 11/10, 12/16と3回開催しました。次回は役員会として1/19開催予定です。

2. 秋季号でミニ情報懇談会実績表を掲載しましたので今回もその続きを載せます。今回はそれほど活発ではありませんでしたが、また頑張りましょう。

ミニ情報懇談会実績

番号	日付	場所	情報提供者	参加者	世話役
1)	11/10	サロン南国の会	セブ ^o 在住：鈴木博(27), パース 在住：奥川勝俊(347)	12～13名	宮崎哲郎(163)
2)	12/9	サロン南国の会	チェンマイ在住：水間伸明さん(会友)	12～13名	宮崎哲郎(163)

§ 広報担当より

担当理事 高澤 弘晃

パソコン教室参加へのお誘い

ワープロのワードを中心に既に、パソコン教室を2回ほど実施しております。パソコンを購入したが、せめてワープロくらいは覚えたいと思われる方は如何でしょうか、ご参加ください。途中参加も大いに歓迎です。

次回 3回目は「罫線」の作成方法を中心に講習を行います。

日時 平成14年2月11日(月)祭日 午後1時から5時まで

場所 JR山手線、大崎駅前 大崎労政事務所

参加費用 1,000円 (テキスト代500円別途)

*参加申し込みは下記アドレスにEメールをください。

fwjc5962@mb.infoweb.ne.jp 高澤

メーリングリスト参加へのお誘い

南の会の皆様専用のEメールを利用した情報交換会を、常時24時間開いております。参加自由です。何時でも発信できます。何時でも情報を受け取れます。

但し会員のみです、会員の皆様が活発に利用されており、既に110名程の方に参加いただいております、まだ参加されていない方は如何でしょうか。

ぜひご参加ください、お待ちしております。

メーリングアドレス NANGOKU

参加希望の方は 下記アドレスに **会員番号、氏名** をEメールにてお知らせください。お待ちしております。 fwjc5962@mb.infoweb.ne.jp 高澤

メーリングリスト・ミニ情報

101 高澤です。新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

すでに110名ほどの方にご利用いただいておりますメーリングリストの充実を図り、皆様の交流の場となれば幸いです。

本年はさらに、メーリングリストの利用法をアップするために、共有フォルダーによる会の活動状況の公開、あるいは会のスケジュール、データベース等一つ

一つ利用していただき、少しでも南の会の交流に役立つよう努力していきます。

更に皆様のご指導をお待ちしております。

パソコン委員会 高沢 弘晃

§ 会報担当より

担当理事 足立洋太郎／小川 護雄

新年明けましておめでとうございます。昨年は投稿、編集、発送と実に多くの皆様
の御指導とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。
本年も旧年に倍してご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 新年号より文字が大きくなりました

文字が小さくて読みづらいという会員の声を配慮して、新年号より試験的に、文字の大きさを従来の10号から10.5号に、1ページの行数を従来の43行から41行に、それぞれ変更してみました。

なお、情報の双方向性、即効性という点からメーリングリストの機能は目を見はるものがありますが、会員の3分の2の方はこの恩恵にあずかれない為、会報担当の判断により、メーリングリストの中から

- ・ 有益な具体的情報と思われるものについては、**メーリングリスト・ミニ情報**
- ・ 有益な意見、感想と思われるものについては、**メーリングリストの声**

として紹介し、広く、あまねくお知らせしていくことにしました。

少しは読みやすくなったでしょうか？ 皆様のご意見をお聞かせ下さい。その他、誌面づくりで何か良いアイデアがありましたら、どんどん皆さんの声を会報担当までお聞かせ下さい。

2. 会報の寄稿者に当会ロゴマーク入り名刺を進呈します

会報に原稿をお寄せいただいた方に対する感謝の意味を込めて、名刺を作製し、進呈します。（裏面が英字表記になっていますので、海外にお出かけになる時はなにかと重宝します）

進呈対象者：2001年秋季号以降、初めて寄稿していただき掲載された方に対し、1回限り進呈させていただきます。（2回目以降は対象外です）

対象者の方は、お手数ですが便箋に以下の事項を御記入のうえ、2月28日までに、会報担当宛て郵送して下さい。（ご郵送の無い場合は、名刺作製の希望なしと判断させていただきます）

（ご郵送いただく事項）

- ① ローマ字表記の**お名前**（パスポートに記載通りの綴りでご記入下さい）
- ② ローマ字表記の**ご住所**（丁目、番地からお間違いのないようご記入下さい）
- ③ **電話番号**
- ④ **FAX番号**（ない場合は結構です）
- ⑤ **Eメールアドレス**（ない場合は結構です）

* なお、夫婦併記での名刺を希望される方は、**お二人の名前**をご記入下さい。

* 名刺のお届けは、春季号の会報と一緒に送らせていただきます。

3. 会報の原稿および表紙絵の投稿は下記にご郵送または E メールしてください。

楽しくて、有益かつ具体的な情報や体験談をお待ちしております。

- ・足立 洋太郎 E メールアドレス：adaci@kk.ij4u.or.jp (近々変更の予定)
住所：〒234-0056 横浜市港南区野庭町 108-1-802
TEL/FAX：045-846-3053
- ・小川 護雄 E メールアドレス：mo.ogawa@mx10.ttcn.ne.jp
住所：〒215-0015 川崎市麻生区虹ヶ丘 3-1-1 201
TEL : 044-986-9052

* 次回、春季号の原稿は **3月31日**までにご投稿下さるようお願いいたします。

* 投稿される場合、次の文字数を目安にしてください (参考)

	<u>文字だけの場合</u>	<u>1 ページに写真 1 枚 を入れる場合</u>
1 ページ	1600 字(400 字詰原稿用紙で 4 枚)	1400 字(400 字詰原稿用紙で 3.5 枚)
2 ページ	3200 字(〃 8 枚)	2800 字(〃 7 枚)
3 ページ	4800 字(〃 12 枚)	4200 字(〃 10.5 枚)

★ 読むだけでなく、見て楽しく、臨場感溢れる紙面にするためには写真が必要です。できるだけ、写真も一緒に送って下さい。(掲載後、写真は必ずお返しいたします)

4. 会報の編集や発送作業をお手伝いして下さいの方、募集中！！

東京および東京周辺の方、いっしょにやってみませんか！！

★編集作業(自宅)：◎手書き原稿をパソコンのワープロソフト(ward)を使って入力する。

◎ Eメールでの受信原稿を会報の標準設定に合わせて完全版下にする。

★発送作業(東京・品川区)：◎封筒と名簿の読み合わせ◎宛名シールと差出人シール貼り

◎封入物の仕分け ◎封入と糊づけ

どの仕事も難しいことは少しもありません。私たち会報担当も昨年8月まではまったくの素人でした。編集作業はパソコンの初歩さえ出来れば誰でもできます。発送作業はどなたでも出来ます。新しい仲間、大歓迎です！！どうか、気軽に足立か小川に電話かメールして下さい。

5. 海外不動産の売買に関する広告掲載は、既契約分を除き、今後すべて中止いたします。

昨年12月16日の役員会において、かねて議論のありました海外不動産取引業者の不動産売買に関する広告掲載については、業者の適格性の審査がこれまでの経験上技術的に極めて困難であるとの判断から、既契約分を除いて今後新規の広告掲載は一切行わないことになりました。

ただし賃貸物件については、従来通りの手続きを経て理事会で承認されたものについて広告掲載を認めることになりました。

(完)

